FOMA 携帯電話機対応

WhiteLock110F

取扱説明書

製品をお使いになる前に、本書をお読みください

PDF を画面でご覧の方は目次や参照ページをクリックすると該当ページにジャンプします。
また文章からジャンプする箇所もあります。

重要事項

本製品は、医療機器、原子力施設機器、航空機器、交通関連機器など、ひとたび事故が起こると生命、財産に関わる重大な損害を与えるおそれのあるシステムには使用しないで下さい。
本製品を組み込んだお客様の製品に起因して発生したいかなる損害に対しても、弊社では一切の責任を負いません。
本製品の仕様、デザインなどは改良のため予告なしに変更する事があります。

はじめに（必ずお読み下さい）

このたびは、「WhiteLock110F」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
本製品は、外部からの入力信号に応じて、FOMA携帯電話機より携帯電話機、PHS電話機、一般電話機などに音声メッセージで自動通報する装置です。
この「非常通報装置WhiteLock110F 取扱説明書」の本文中においては、「WhiteLock110F」を「WL110F」と表記させていただいております。あらかじめご了承下さい。
※「FOMA」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

●WL110Fを使用する為には、契約済みのFOMA携帯電話機が必要です。対応携帯電話機は弊社ホームページで最新情報をお知らせしております。弊社で未確認のFOMA携帯電話機でも正常に使用できるものもあります。また、本体のソフトウェアが改版されると使用できなかったFOMA携帯電話機でも使用できるようになることがあります。
●スマートホンには対応しておりません。
●WL110Fに接続するFOMA携帯電話機は無線を利用しているため、トンネル・地下・建物の中などの電波の届かないところ、屋外でも電波の弱い所およびサービスエリア外ではご使用になれません。
●高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしの良い所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波の特性上、接続されたFOMA携帯電話機の受信レベルが十分な状態で移動せずに使用している場合であっても通信が切れる、音声が聞こえない事がありますので、ご了承下さい。
●WL110Fの誤作動、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機械を逸したために生じた損害などの純粋経済損失については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承下さい。
●WL110Fは日本国内でご使用下さい。
注1）FOMA携帯電話機が使用出来る国であれば動作しますが、海外の法律に合わせていない為日本国外でのご使用はできません。（保証対象外）
注2）海外でご使用された場合、販売者ではなく使用者が罰せられますのでご注意下さい。また、輸出に関する書類等の提供は出来かねますのでご了承下さい。
●WL110Fをお使いになる前に、本書をよくお読み頂き、手順に沿って動作を確認の上ご使用下さい。特に通報先の電話番号の間違いには十分ご注意下さい。この説明書は、本製品の側などにいつも手元においてお使いください。
●WL110Fは付属品を含め、改良のため予告なく装置全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承下さい。
●WL110Fは、ご購入直後の状態ではそのまま使用することができません。弊社製品サイトより設定用ソフトウェアとUSBドライバをダウンロードしていただき、パソコンにインストールし設定を行う必要があります。また、音声通報する場合は録音も行って下さい。設定後は本書の説明にしたがって動作確認をしてからお使いください。
●WL110Fに接続するFOMA携帯電話機の設定は、FOMA携帯電話機に付属の説明書をお読みください。
※本取扱説明書に掲載の設定ソフトはWhiteLock110F 設定ソフト Ver1.01 が記載されています。

FOMA携帯電話機の取り外しについて
WL110Fの電源が入った状態で携帯電話（またはWL110F）から携帯ケーブルを外されますと、故障する恐れがあります。必ずWL110Fの電源を切った状態で携帯電話（またはWL110F）から携帯ケーブル外して下さい。

長時間停電が続いた場合について
停電が長時間続くと、停電保証電池の残量が無くなり、復電通報ができない場合があります。また、停電保証の仕様を満たすためにはACアダプタからの通電が約3日間必要です。
停電は連続して発生する場合がありますが、このような場合は、停電保証時間が短くなることがあります。
停電中はFOMA携帯電話機への充電はできません。停電が長時間続くとFOMA携帯電話機の電池が無くなり、復電した際に通報装置の運転を再開出来ないことがあります。また、設定ソフトで停電通報と着信機能を有効にしておくと、停電後に運転をしているか確認することができます。

本体の蓋を開けないでください
本体内部にはお客様が設定されるスイッチなどはございません。本体の蓋は開けない様にご注意下さい。

製品の最新情報、バージョンアップはインターネットでご確認できます。
製品ホームページ　http://www.adocon.jp/
※本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
※本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

安全にお使いいただくために

本製品の誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐために、本文中に示す「警告マーク」および「注意マーク」の意味を十分理解していただき必ずお守り下さい。
この取扱説明書では動作設定および操作の手順について解説しています。内容をご理解いただいたうえ、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。

警告マーク及び注意マーク表示について

警告

この表示の警告事項を無視して本製品の取り扱いをすると、本製品が誤動作し、人命、身体に関わる死傷事故、財産に対する損害事故が生ずる可能性があります。また、法律違反になる場合があります。
弊社では、この事に起因するいかなる損害に対し一切の責任を負いません。

注意

この表示の注意事項を無視して本製品の誤った取り扱いをしますと、本製品が破損、又は通信不能や誤動作する場合があります。
弊社では、この事に起因するいかなる損害に対し一切の責任を負いません。

警告と注意

警告

本製品は、人命や身体、財産に関わる重大事故の発生するおそれのある設備や機器としての使用や、それらに組み込んで使用しないで下さい。また、それら施設の周辺で使用しないで下さい。
電波による誤動作を引き起こす可能性がある医療機器の近くでは使用しないで下さい。
航空機、原子炉施設などの重要施設等での使用はしないで下さい。
本製品を使用したシステムを設計する場合は誤動作防止、火災発生対策など安全設計をして下さい。
軍事目的（武器、テロ行為）や、軍事関連施設では使用しないで下さい。
本製品は、日本国内仕様となっていますので、海外では使用しないで下さい。本製品を日本国外で使用するとその国の電波に関する法律に違反する可能性があります。
本製品を使用するシステム、機器の安全対策を十分に行って下さい。
本製品は電波を使用しており、電波使用範囲内であってもマルチパスフェージングや外来ノイズの影響で通信が途切れる場合があります。その場合でもシステムが常に安全を保つように考慮して下さい。
以下のような環境あるいは、本製品の定格や仕様の範囲を越えた使用はしないで下さい。
・本商品は精密機器です。塵・ほこり・水滴等により故障することがあります。
・振動や衝撃が加わる場所。高温、低温になる場所や温度差が急激に変化する場所、閉め切った車内、ストーブ、ヒーター、冷凍庫、本体の放熱を妨げる場所など。
・湿度や水気が多い場所、浴室内、台所の流しや湯気の当たる場所、雨や雪のかかる屋外、直射日光が当たる場所。
・強い電波や磁力、静電気が発生する場所。腐食性ガスの発生、化学物質の付着するおそれのある場所。
以下のような取り扱いは絶対にしないで下さい。
・本製品を落下などの衝撃を加えないで下さい。
・本製品の上には、重い物、液体などを置かないで下さい。

・異常発熱や発煙の原因となる為、本製品内に金属などの異物が入らないようにして下さい。
・電源供給線の誤配線が無いようにして下さい。
・手や体が電源部に接触すると感電する事がありますので、ご注意下さい。
・煙が出るなど、異臭がした場合は直ちに電源供給を停止し使用を中止して下さい。
・感電の恐れがありますので、電源を入れた状態では施工しないでください。
・本体は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
・本体内部に異物等が入らないようにご注意ください。

注意

本体の分解・改造は行わないでください。本体内部は静電気に極めて弱い部品が使用されています。本体に触る前に人体の静電気を逃がしてください。
異常発熱や発煙を防止するため、本製品の保障特性・性能の数値に少し余裕を持たせて使用してください。
本体もしくはそれに接続されている部分から異臭がした場合や、過熱や煙が出たりする場合は、ただちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
本製品を長期間使用しない場合は、購入時の箱に入れて保管して下さい。
本書の内容のコピーや転載を無断で行わないで下さい。著作権法により禁止されています。
AC アダプタは必ず付属品をご使用ください。他の製品の流用は絶対にお止め下さい。
通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかる場合があります。設定後には動作試験を必ず実施してからご使用下さい。また通報先に登録してある電話番号を解約された際にも、通報装置の設定修正と動作試験を行ってください。

設置場所について（必ずお読み下さい）

本体を次のような場所に設置しないでください。動作が不安定になるなど、おもわぬ火災や故障の原因になる場合があります。

・急激な温度変化や湿度変化がある場所。
・結露するような場所。
・直射日光があたる場所。
・水気、火気のある場所。
・粉塵等のほこりの多い場所。
・不安定な場所や振動がある場所。
・強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。
・腐食性ガスのある場所。
・気化した薬品や化学反応をおこす様な場所。空気中に塩分が含まれている場所。
・鉄粉がある場所。

お願い

本体やケーブル等は、小児の手が届かない場所に保管、設置してください。
長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守・点検を行ってください。

初期不良について

初期不良は商品到着後 14 日以内です。また、弊社の発送間違えの場合も交換させていただきます。なお、初期不良で売り切れ商品につきましては、同機種に交換できない場合があります。その場合、修理対応とさせていただくか、弊社によるお引取りにて対応させていただきます。

製品保証について

本製品の保証期間は、ご購入の日から 1 年間です。保証期間を過ぎた場合は有償修理となります。ただし、「警告と注意」の項に掲げた環境や使用状況での故障につては、保証期間であっても有償修理となります。保証に関する詳細は製品に添付の保証書をご覧下さい。

雷による故障について

雷による故障は保証期間内であっても保証対象外となります。
対策として、電源用避雷器(AC100V 用)を取り付ける事をおすすめします。弊社では避雷器の販売をしておりませんので別途ご用意下さい。

製品修理について

本製品の正しいご使用方法にも関わらず発生した故障に対し、製品の保証期間中（ご購入後１年間）は無償で修理いたします。保証期間を過ぎている場合は有償修理となります。
修理に出される前には、弊社ホームページの製品別 Q&A に同様な事例がないかご確認下さい。また、もう一度故障状況もご確認いただき、弊社営業担当者まで事前にご連絡をお願いします。
修理品は宅配便などで弊社までご送付下さい。

修理内容の明記

修理に出す場合は、必ず故障の内容や状況を具体的に明記し、修理品と一緒に送って下さい。

修理料金について

修理料金は、技術料、部品代、送料で構成されます。

送料について

・保証期間内： 返送費用は弊社負担とさせていただきます。
弊社までの送料はお客様でご負担下さい。
・保証期間外： お客様の負担となります。

※出張修理は行いません。

ご連絡、お問い合わせ先

各種問い合わせは、下記の連絡方法がございます。また、弊社のホームページには技術情報ならびに最新情報、Q&A などが掲載されていますのでご覧下さい。
インターネットメールによるお問い合わせが、簡潔で間違いが無く、内容が伝えやすいのでとても便利です。
技術的なお問合せに関しては、開発環境や問題となっている事柄などを具体的にとりまとめてからご連絡下さい。

■ インターネットメール
Ｅメールアドレス：eigyou@adocon.co.jp
宛先：株式会社アドコン　営業担当宛

■ 電話
電話番号：0852-54-2036
受付時間： 9：00 ～ 12：00
13：00 ～ 17：00
※営業日は平日のみとなっております。

■ FAX
ＦＡＸ番号：0852-54-2196
宛先：株式会社アドコン　営業担当宛

■ 郵便
郵便番号：690-2101
住所：島根県松江市八雲町日吉 3−24
宛名：株式会社アドコン　営業担当宛

■ホームページ
ホームページには製品毎のカタログ、取扱説明書ならびに新着情報、Q&A などが掲載されていますのでご覧下さい。
ホームページアドレス http://www.adocon.jp/

目　次

ご使用の前に

略称、商標について

記載の会社名または製品名は各社の登録商標です。

制限事項

本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。

本体と接続可能な携帯電話機はドコモのFOMA(フォーマ)に限ります。
※FOMA携帯電話機の機種によっては、正常に動作しない機種もありますのでご注意下さい。
※スマートホンには対応しておりません。
※使用できるFOMA携帯電話機については弊社製品サイトを参照してください。
http://www.adocon.jp/

本体の操作について

・設定ソフトで設定内容を転送した後には、必ず実際に通報させて設定通りに動作するか確認して下さい。テスト動作等される場合は、必ず33ページの「動作確認」に従って接続して下さい。
※設定ミスによるトラブルや訴訟などにつきましては、弊社は一切保証致しません。

・電源スイッチをOFFにした直後、再びONにすると正しく起動しないことがあります。電源スイッチをOFFにした時は、3秒以上経ってからONにして下さい。

・本体の電源スイッチをOFFにした状態で電源プラグを差し込んでください。

・接点毎に異なる通報先の設定はできません。

・出荷時は設定されていない状態です。この状態では入力信号が「有り」になっても通報しません。

・再呼出機能については、同一の通報先を複数設定することで対応できます。

使用環境温度について

FOMA携帯電話機充電時の適正な周囲環境温度は**5℃～35℃**となっています。範囲外の環境では、FOMA携帯電話機が正常に動作しなくなり、WL110Fからの自動充電が出来なくなりますので、ご注意下さい。

本体内蔵の充電池について

出荷時、充電池は完全に充電されておりませんのでご注意ください。商用電源（ACアダプタ）を接続して、72時間（3日間）経過しますと満充電になります。本体の電源スイッチがOFFの状態でも充電します。

製品概要と特徴

概要

本製品は　FOMA 携帯電話機を接続し、株式会社 NTT ドコモの FOMA サービスを利用して通報を行います。本製品をご利用になるためには、回線契約された FOMA 携帯電話機が必要となります。

特　徴

- **電話回線が無い場所での使用が可能**
  FOMA携帯電話機を使用して通報しますので、固定電話回線が引けない場所でも設置できます。
- **接点入力4点**
  入力接点が4点あり、様々なセンサーや機器類が接続できます。
- **外部入力毎にIC録音された内容で自動通報**
  圧縮無し直接録音方式なので、音質良好です。録音は何度でも可能。録音内容の保証は10年。
- **最大6ヵ所までの通報が可能**
  最大6ヵ所までの通報先が指定出来ます。
- **通報終了の条件も指定可能**
  通報先毎に「必ず通報」するか「何所か1ヵ所」に通報できたら終了を選べます。
- **状態の確認が可能**
  「WL110F」に接続したFOMA携帯電話機に固定電話や携帯電話から電話をかけ、現在の信号入力の状態を音声メッセージで確認できます。また、発信者番号で着信の受付を制限することもできます。
- **FOMA携帯電話機への繰り返し自動充電機能付き**
  長期にわたってメンテナンスフリーで使えます。
- **停電保証30分間以上を確保、バックアップ電池付き**
  006P型ニッケル水素充電池を標準添付。
- **停電・復電通報を標準装備**
  外部から停電信号を接続する必要がありません。設定ソフトにチェックを入れるだけで有効となります。
- **小型で制御盤内への組込が容易**
  本体重量は約240gと軽量です。本体サイズも非常にコンパクトなので制御盤内への取り付けも簡単に行えます。
- **設定用パソコンソフト（Windows XP、7、8用）**
  設定ソフトは、インストールも設定もとても簡単です。最新の設定ソフトは、弊社製品サイトからいつでもダウンロードしてご利用できます。製品には、USB通信ケーブルを標準添付しております。
- **入力信号の選択が可能**
  「入力がONになったときに通報する」又は「入力がOFFになったときに通報する」を入力毎に設定が可能。設定ソフトにチェックを入れるだけで設定の切り替えができます。
- **低価格**
  他社の半分以下の超低価格。もう通報装置にお金をかける必要はありません。
- **リダイヤル機能**
  FOMA 携帯電話機種によっては通信によるリダイヤル(同一番号に続けてダイヤルする)間隔を厳密に規制しているものがあります。この規制は一定時間の間に、数回(3 回の機種が多い)リダイヤルを行うと、その後リダイヤルできないしくみになっています。3 分待てば再びリダイヤルできますが、WL110F は非常通報装置としての役割を全うする義務があります。このため、リダヤル規制にかかったとき、ブザーを鳴らして知らせた後、30 秒ほど待つと再びリダヤルを開始するように作られています。
  通報先が話し中や圏外のときは速やかにリダイヤルを行うことが必要ですが、従来の MOVA 方式と比べて FOMA 携帯電話機の場合は少し余計に待たなければなりません。WL110F は、30 秒程度待てばリダイヤル規制を備えた携帯機種であっても問題なくリダイヤルに入り、速やかに通報する機能を備えています。

パッケージ内容

製品をご使用になる前に、以下のものがパッケージに全て揃っているかご確認ください。不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

名称	画像
本体	
取付足 （取付足専用ケースネジ付）	
端子台ソケット （本体に取り付け済み）	
USB 通信ケーブル （A-B）	
AC アダプタ	
イヤホンマイク （平型）	
携帯ケーブル （約 50cm）	
停電保証用充電池	
保証書	―

※図は、実際のものと多少形状等が異なる場合がありますのでご了承ください。
※FOMA 携帯電話機は本製品には付属しておりません。
※取扱説明書、設定用ソフトウェアは本製品に付属しておりません。

取扱説明書、設定用ソフトウェアは製品のページから最新版をダウンロードしてお使い下さい。
製品サイト　http://www.adocon.jp/

取扱説明書（モノクロ A4 版）や、設定用ソフトウェア（CD 版）を別途購入して頂くことも可能です。ご購入の際に販売店、または弊社までお問い合わせ下さい。

WhiteLock110D との違い

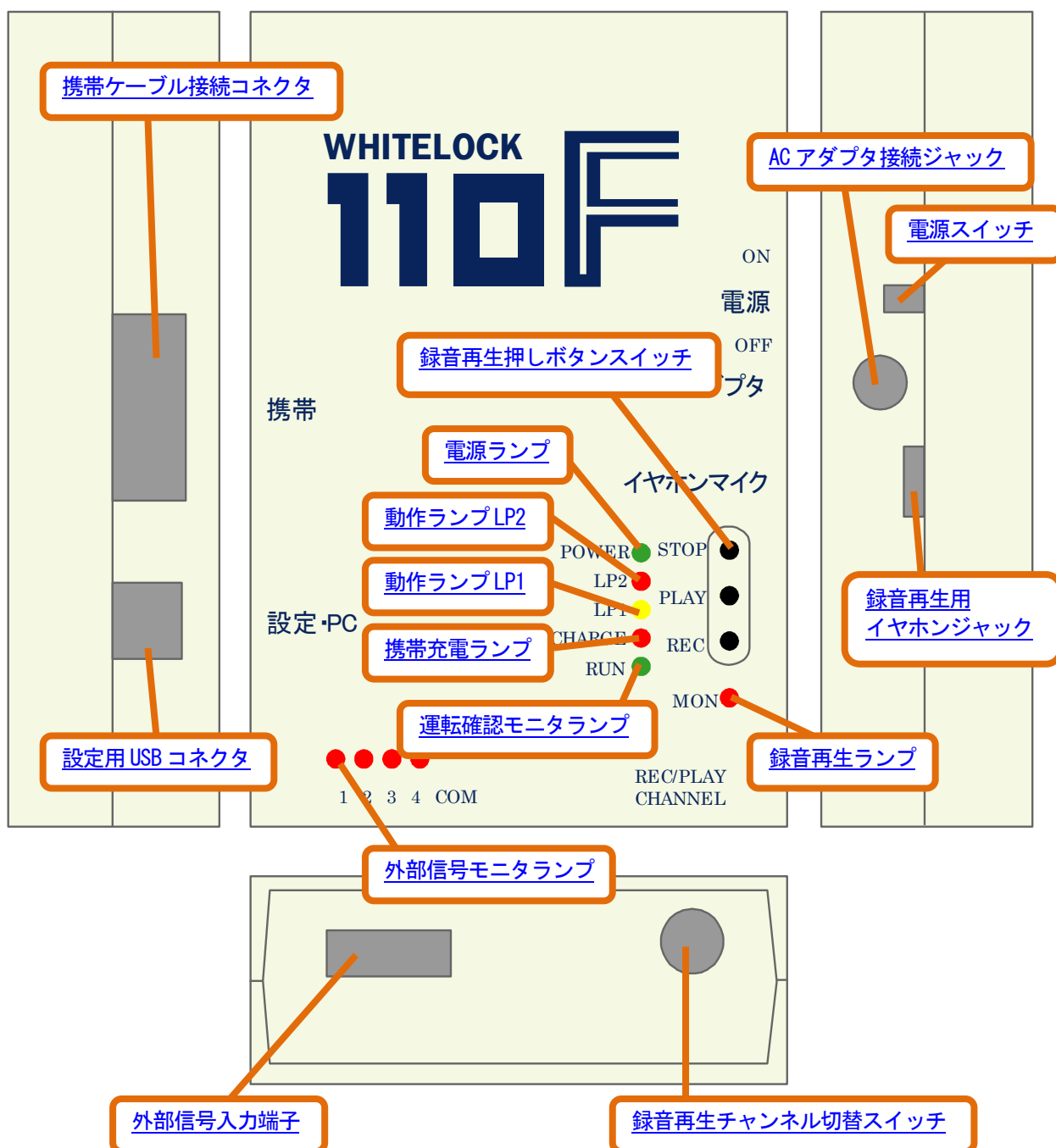
・設定ソフトはWL110F専用です。WL110Dの設定ソフトでは設定できません。弊社ホームページからダウンロード後、インストールしてご使用下さい。
・録音再生の音質を改善しました。
・WL110Dは、タダ電通報に設定している場合、通報先が電話に出るとWL110Dから電話を切りましたが、WL110Fはすぐに切りません。回線が接続された状態が120秒経過した後にWL110Fから電話を切り、リダイヤルします。
・センサー用のオプション電源を廃止しました。
・FOMA携帯電話機の「USBモード設定」で「通信モード」への設定が必要になります。
・正常確認用のランプを装備しました。RUNランプが点滅しているときは正常運転しています。
・FOMA携帯電話機への充電状態をWL110Fで確認出来るように、充電ランプを装備しました。
・FOMA携帯電話機の充電電圧設定が無くなりました。
・WL110Dは1日1回の定期充電方式でしたが、WL110FはFOMA携帯電話機のバッテリー残量が一定量以下になったとき充電を行う方式に変更しました。
・パソコンで設定する際のインターフェイスを、DSUB(RS-232C)からUSBに変更しました。これにより、DSUBコネクタが無いパソコンで設定するとき、USBシリアル変換器が不要になりました。
・通報先の携帯電話が、呼出音(プルル音)に音楽が混じって(又は音楽のみが)流れるサービス（ドコモサービス名『メロディコール』・auサービス名『待ちうた』）に契約されている場合でも、正常に通報出来る(音声メッセージが聞こえる)ようになりました。
・文字メッセージで通報することが出来なくなりました。これはFOMA携帯電話機の仕様によるものです。併せて文字メッセージでの定期通報と個別解除通報が出来なくなりました。
・集中監視用トーンモデムへの通報が出来なくなりました。これはFOMA携帯電話機の機種によって、DTMFトーン信号の誤差範囲が大きいものがあったためです。
・リダイヤル回数の設定を廃止しました。これはリダイヤル中に通報先が電話に出ない場合、設定したリダイヤル回数分ダイヤルをした時点で通報が終了してしまうトラブルを防止する為です。
・再発信規制への対応。MOVA携帯電話機(WL110D用)では、リダイヤルを繰り返し行うことが可能でしたが、FOMA携帯電話機では再発信規制の機能をもっているため､同一番号に対して再発信が規制されるようになりました｡規制の内容は、最初のダイヤルから一定時間の間に複数回同一番号へダイヤルしたとき、その電話番号へはダイヤルできなくしてしまう機能(ブラックリスト)です。弊社では通報装置の使命を固守するために、独自の技術でリダイヤルを続けて行う工夫を盛り込んでいます。
　*ブラックリストに登録されたときは、登録をクリアするためにおよそ30秒間待つ必要があります。
　*再発信規制のダイヤル回数やダイヤル間隔などはFOMA携帯電話機の機種により異なります。

Ver1.22 へのバージョンアップによる動作の違い

WL110Fの本体バージョンが2010年5月1日出荷分よりVer1.22になりました。
（設定ソフトで本体バージョンの確認が可能です。確認方法は25ページを参照下さい。）

・FOMA携帯電話機のバッテリー残量が全く無い状態でのWL110Fとの接続が可能になりました。
1.断続ブザーが20秒間鳴った後、5分間FOMA携帯電話機を充電します。
2.充電を10秒間停止します。
3.再び10秒間充電します。
4.充電を終了してFOMA携帯電話機との通信が確定し、通常運転に入ります。
5.運転状態に入ってからFOMA携帯電話機のバッテリー残量が3分の1(または5分の1)以下になると追加充電を開始し､FOMA携帯電話機が満充電になるまで充電し続けます。

各部の名称とその機能

本体外観

動作設定

WL110F は、ご利用の前に通報動作に必要な条件や電話番号などを登録しておく必要があります。この登録は、パソコンに「設定ソフトウェア(Windows XP/ 7/ 8 用)」と USB ドライバをインストールしたもので行います。設定ソフトウェア、USB ドライバは弊社ホームページからいつでもダウンロードできます。
ご自分で設定ができないときは、パソコンを持っている方にお願いするか、弊社に設定をご依頼ください。また、ご購入後の設定変更も承ります（どちらも有料で、別途送料が必要です）。

設定ソフトのインストール

設定ソフトをパソコンにインストールするためには、インストーラーソフトを入手する必要があります。

ホームページから「ダウンロード」を利用する場合

※ソフトウェアをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。
① 弊社ホームページのトップ画面から、下記を選択します。
「ダウンロード」→「設定ソフト」→「WhiteLock110F」

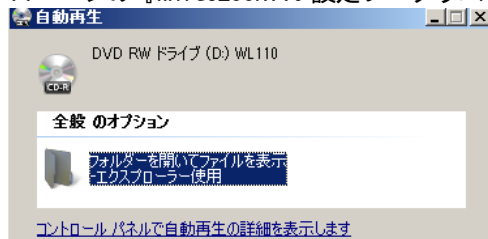
② ダウンロード画面の「README.txt」を開き、インストール方法の内容を確認して下さい。

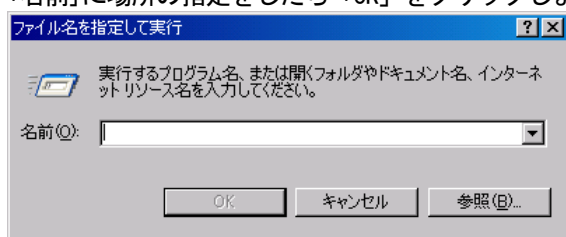
③ 「設定ソフトダウンロード」をクリックします。
※パソコンに保存した後にセットアップを行う場合
「保存」ボタンを選択すると、「名前を付けて保存」の画面が表示されます。パソコンの適当なフォルダ（C:¥TMP など）を指定し、「保存」ボタンをクリックします。
保存先のフォルダ内の[WL110FVxxx.EXE]（xxx はバージョン番号が入ります）をダブルクリックするとセットアップが始まります。

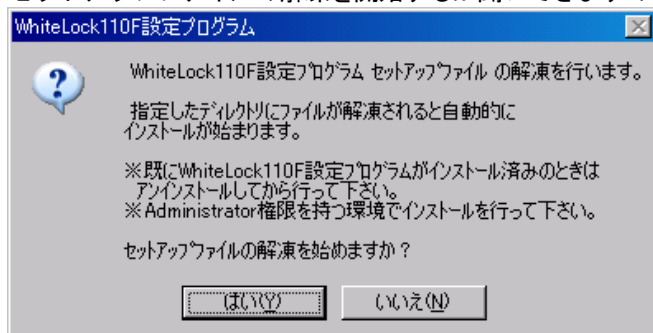
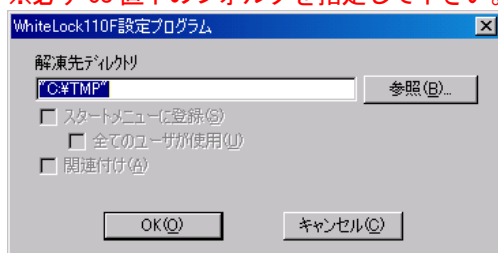
※パソコンに保存せずにインストールを開始する場合
「実行」ボタンを選択します。ここで「発行元を検証できませんでした･･･」が表示されたら「実行」を選択します。「セットアップファイルの解凍を始めますか?」に対して「はい」をクリックします。
解凍先のフォルダを聞いてきますので、パソコンの適当なフォルダ（C:¥TMP など）を指定して「OK」　ボタンをクリックします。しばらく待つと、セットアップが始まります。

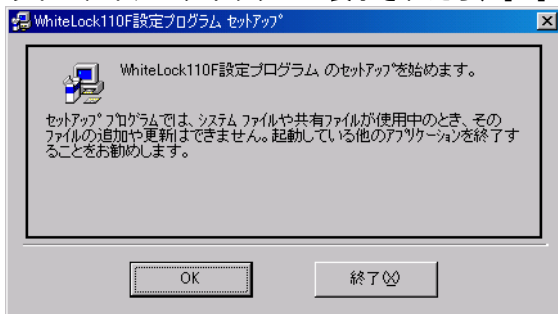
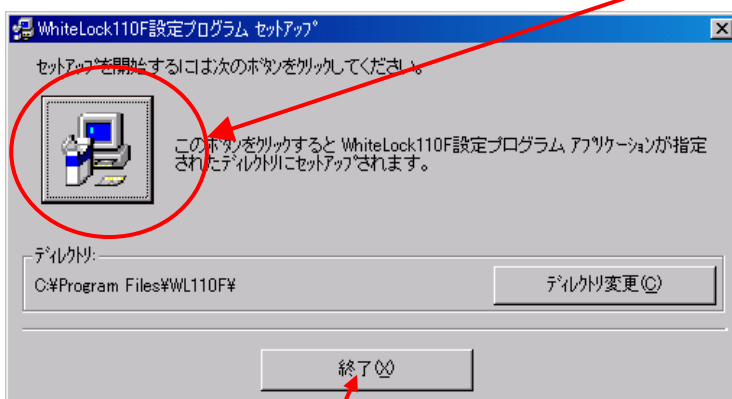
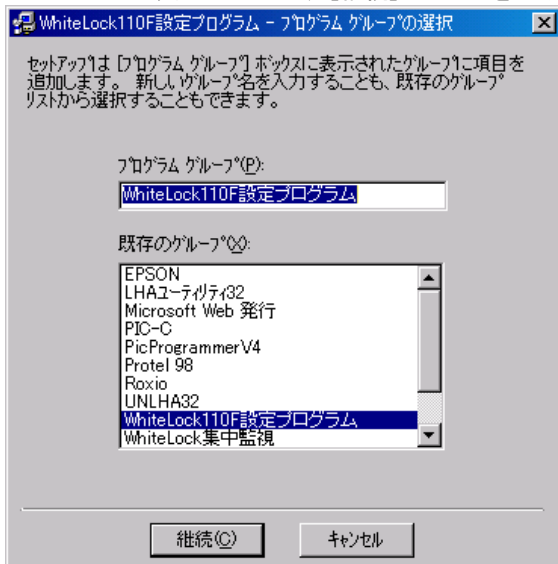
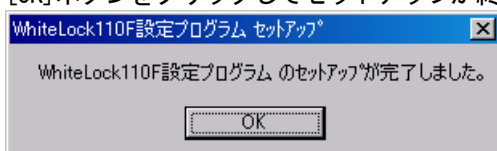
④ セットアップは15ページ「設定プログラムセットアップ」から参照下さい。

CD-R からインストールする場合

※ソフトウェアをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。
【 Windows7 でインストールする場合 】
CD-R を DVD-RW に入れると、自動再生画面が出ます。
「フォルダを開いてファイルを表示…」を選択し、「WL110FVerxxx.EXE」をダブルクリックします。
14ページの『WhiteLock110 設定プログラムセットアップファイル解凍』の画面が出ます。

【 Windows XP でインストールする場合 】
［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行(R)］を選択します。

「ファイル名を指定して実行(R)」のウィンドウが表示されたら、「参照(B)」をクリックします。
「ファイルの場所」で「マイコンピュータ」を選択し、その中にあるDVD-RWドライブを開き、「WL110FVxxx.EXE」を選択して開きます。
「名前」に場所の指定をしたら「OK」をクリックします。

セットアップファイルの解凍

セットアップファイルの解凍を開始するか聞いてきますので、「はい」をクリックします。

解凍先を聞いてきますので適当なフォルダを指定します。
※必ずOS直下のフォルダを指定して下さい。

設定プログラムセットアップ

以下のダイアログボックスが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックすると下記の画面が表示されます。
インストール先のディレクトリを変更したい場合は、[ディレクトリ変更(C)] ボタンをクリックして変更します。
設定ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定して大きなボタンをクリックします。

インストールを中断しない限り、[終了(X)] ボタンをクリックしないで下さい。
このボタンをクリックすると、インストールせずに終了してしまいます。
以下の画面が表示されたら、[継続] ボタンをクリックします。

セットアップ完了画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックしてセットアップが終了したら、パソコンを再起動して下さい。

USB ドライバのインストール

設定ソフトで設定した内容を本体に転送するには専用のデバイスドライバのインストールが必要です。
※ドライバをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。

弊社ホームページの「ダウンロード」を利用します

① 弊社ホームページのトップ画面から、下記を選択します。
「ダウンロード」→「設定ソフト」→「USB ドライバ」

② 「USB ドライバのインストール方法 PDF」を選択し、内容を確認して下さい。
※インストール方法は紙に印刷して、お手元に置いた状態でのインストールをおすすめします。
※このインストール方法の説明(PDF 形式)は、表示された画面の「ファイル」－「名前を付けて保存」で任意のフォルダに保存しておくことが出来ます。

インストール時には WhiteLock110F 本体と付属の USB 通信ケーブルが必要です。この時、本体に AC アダプタは接続しません。

Windows7、Windows8 での自動インストール

ダウンロード画面の「USB ドライバのインストール方法 PDF」を参照下さい。
※自動インストールは、パソコンがインターネット高速回線(光回線又は ADSL 回線)に接続されていなければ出来ません。

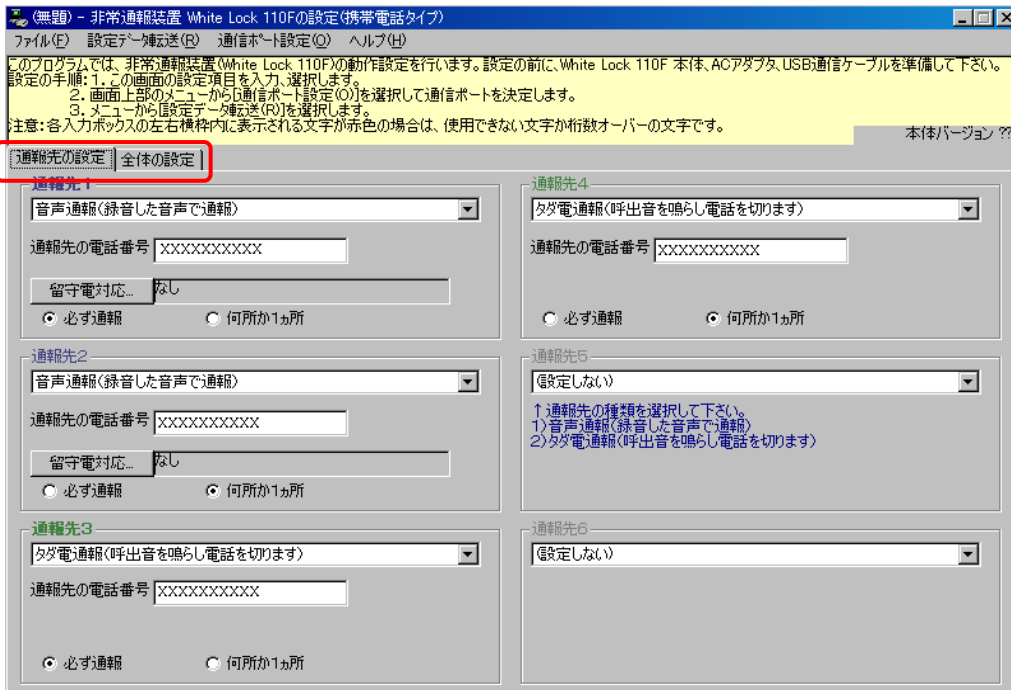
設定に使用するパソコン

設定を行う場合、以下の仕様のパソコンが必要です。

CPU	Pentium150MHz 以上
OS	日本語　Windows XP 、Windows 7、Windows 8
ハードディスク	インストールに 7MByte 程度の空きエリアが必要
メモリ	実装メモリ 64MByte 以上
モニタ	解像度 800×600 ドット以上が表示可能なカラーディスプレイ
ビデオカード	800×600 ドット以上で、256 色以上が表示可能なもの
USB ポート	USB ケーブル（設定内容を本体に転送する時に使用） ※USB ケーブルは本製品に付属しています

※　記載の無い OS で動作する場合もございます。
※　Windows98、WindowsMe、Windows2000 のサポートは終了しました。
※　既にインストール済みのソフトウェアやハードウェアの設定、その他の状況により、設定ソフトが正常に動作しない場合もあります。
※　弊社ホームページから WL110F 設定ソフトウェアと USB ドライバをインストールしてからご使用下さい。

設定ソフトウェアの起動

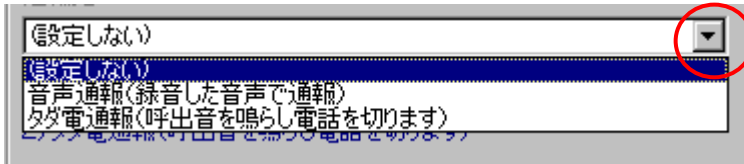
[スタート]メニューから[すべてのプログラム(P)]の[WhiteLock110F 設定]を選択して設定ソフトウェアを起動して下さい。
「WL110F」の設定画面は、「通報先の設定」「全体の設定」の 2 つがあります。中央上の「タブ」をクリックして 2 つの画面を切り替えます。

画面の各設定項目上にマウスポインタを移動させると、項目毎の説明が表示されます。
＊[通報先の電話番号]は必須入力です。未入力の場合は赤い文字で表示されます。
＊「WL110F」への転送は何回でも行えますので、最初は練習のつもりで設定を変えて転送してみてください。

通報先の設定

通報先が最大 6 ヶ所まで指定できます。通報先毎に「音声通報」または「タダ電通報」を選択できます。

通報先の種別

- 録音した音声で通報する場合は、「音声通報（録音した音声で通報）」を選択します。
- 呼出音を鳴らしてすぐ電話を切る場合は、「タダ電通報（呼出音を鳴らし電話を切ります）」を選択します。
- 設定しない場合は「（設定しない）」を選択します。

下図の下矢印（▼）をクリックすると一覧が表示されます。

通報する順番は通報先 1、通報先 2、…通報先 6 となります。
全ての通報先を「（設定しない）」にすると、どこにも通報しません。
状態の確認のみ使用したい場合は全て「（設定しない）」にしておきます。
※初期状態は全て「（設定しない）」になっています。
※通報先 1 から順に設定して下さい。
下記のような設定では、正常動作しないおそれがありますのでご注意下さい。
・通報先 2 以降から設定した場合
・通報先 1 から最後の通報先までの間に「（設定しない）」を入れた場合

通報先の電話番号

- 通報先の一般回線電話機、携帯電話、PHS の電話番号を入力します。
- 通報先 1 カ所につき最大 24 桁まで入力できます。
- 必ず市外局番を入力してください。
- ハイフン（－）は入力せず、番号部分のみ入力します。
- 発信者番号を通知する場合は、電話番号の先頭に「186」を入力します。

下図は音声通報の場合です。XX-XXXX-XXXX へ音声通報します。

下図は通報先に内線番号がある場合です。
XX-XXXX-XXXX をダイヤル後 2 秒後に XXXX（内線番号）へ音声通報します。
コンマ（,）1 つにつき 0.5 秒の待ち時間が設定出来ます。

下図はタダ電通報の場合です。XXX-XXXX-XXXX へ発信者番号通知でタダ電通報します。

留守番電話サービス対応

音声通報で通報先が留守番電話サービスへ接続された場合の対応を設定します。

通報先が留守番電話サービスへ接続された場合、留守番電話サービスのシステムによっては、正常に通報が終了する場合と、リダイヤルする場合があります。ここでは、通報先の留守番電話サービスに合わせて、正常に通報が終了するよう設定を行います。

※　この設定により、人が通報を受けた場合にも、音声メッセージと一緒に DTMF 音（ピポパの音）が聞こえるようになります。
※　WL110F は、通報を受けた先が人か留守番電話サービスかの判断は出来ません。どちらであっても正常に通報が終了するよう設定します。

対応する「留守番電話サービス」を選択してください。

注意点

・留守番電話センターに接続されても、正常に通報できるか十分テストを行ってください。
・留守番電話センターのシステムが変更した場合に、本機能が正しく動作しない場合もあります。
・この設定をした通報先に人が電話に出た場合は、音声メッセージと一緒に 90 秒後に「#」などのプッシュ音が聞こえます。
・WL110F は留守番電話サービス側から電話を切らなければ、通報終了になりません。
・呼出音が鳴る必要はありません。

※自動応答が始まってから 120 秒以内に自動的に電話が切れる留守番電話ならば、この設定は必要ありません。

ドコモ留守番電話サービスの場合
「ドコモ留守番電話サービス」を選択してください。
通報装置が電話をかけてから 90 秒後に「#1」を送信してメッセージを保存します。
留守番電話サービスの応答メッセージが長すぎると通報内容の録音ができません。

au お留守番サービスの場合
「au お留守番サービス」を選択してください。
お留守番サービスの自動応答が始まってから 90 秒後に「#」、さらに 10 秒後に「#」を送信してメッセージを保存します。

その他のお留守番サービスの場合
ドコモお留守番電話サービスに設定し、テスト通報させてみます。通報先の留守番メッセージに通報メッセージが保存され、通報が終了するか確認します。
うまくいかない場合は、au お留守番サービスに設定し、テスト通報させてみます。この場合も、通報先の留守番メッセージに通報メッセージが保存され、通報が終了するか確認します。

通報メッセージが保存されない場合や、通報が終了しなかった場合は、「ユーザー設定」でお使いのお留守番サービスに合わせて設定して下さい。

①まず、設定するお留守番サービス（又は留守番設定）に電話をかけて時間を計ります。
●お留守番サービス（又は留守番設定）のアナウンスの時間。
②『文字の説明』を参考に『手順文字列』へ入力します。
●WL110F は通報先が電話に出た時点で音声メッセージを流し続けます。アナウンスが終わって音声メッセージが録音される長さまで待ちます。
●録音メッセージを保存する為に必要なダイヤルを入力します。（#など）
③『手順詳細』で内容を確認します。

通報終了条件

それぞれの通報先は「必ず通報」か「何所か１ヵ所」を選択できます。
「必ず通報」を選択した場合は、他の通報先にかかわらず、通報が成功するまで通報を試みます。

◉ 必ず通報　　○ 何所か1ヵ所

「何所か１ヵ所」を選択した場合は、他の「何所か１ヵ所」を選択した通報先の何所か１ヶ所にでも通報が成功すれば、通報しません。

○ 必ず通報　　◉ 何所か1ヵ所

※2 カ所以上の通報先を「何所か１ヵ所」に選択する事が可能です。
※この何所か１ヵ所は、「必ず通報」を選択している通報先は対象外ですので、ご注意下さい。
詳しくは36ページの「複数の通報先を終了する条件」を参照してください。

全体の設定

全体の設定は２つ目のタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

電源 ON 時に 60 秒間、入力信号を無視する

□内にチェックを付けると、電源スイッチを入れて FOMA 携帯電話機との通信確立後、60 秒間 LP1 が低速点滅します。この間、入力信号が ON/OFF しても通報しません。また、着信もしません。
※「検知センサ―CM-02」を使用される場合はチェックを入れてください。

☑ 電源ON時に60秒間入力信号を無視する

停電や復電時に通報する

□内にチェックを付けると停電や復電時に通報するようになります。
詳細説明は35ページの「停電時発信」をお読みください。

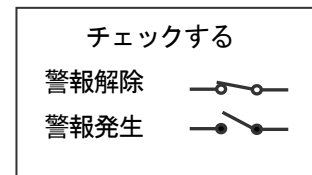
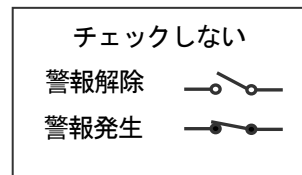
停電、復電と判定するまでの時間を１秒、10 秒、１分、10 分から選択できます。

解除呼出の方法

全ての入力信号が解除されたとき（機器の故障やセンサーの信号が全て「なし」の状態になったとき）に通報する場合に、□内にチェックを付けます。

※「全ての入力信号が解除されたとき」の状態は、入力信号の接点仕様（21ページ参照）に準じます。
※「各入力信号が解除になる度に解除呼出を行います」は使用出来ません。

入力信号の接点仕様

各入力信号の接点仕様を設定します。
□内チェックを入れないと、a 接点仕様になります。
□内チェックを入れると、b 接点仕様になります。

・「警報発生」のときに短絡する信号を出力する場合はチェックを入れません。
（a 接点/ノーマル・オープン接点/メイク接点など）
・「警報発生」のときに開放する信号を出力する場合はチェックを入れます。
（b 接点/ノーマル・クローズ接点/ブレーク接点など）
※初期値ではチェックは付いていません。（a 接点）
※本体の入力信号モニタランプは、外部信号が短絡した時に点灯します。
※b 接点（チェックを入れた場合）の警報発生時の入力信号モニタランプは消灯状態です。警報解除時に点灯します。

入力信号の判定時間（ミリ秒）

各入力信号がこの時間の間、継続して ON（OFF）の時に入力変化があったとみなします。100 ミリ秒単位で 200 ミリ秒～600000 ミリ秒（約 10 分）まで設定できます。
※初期値は 700 ミリ秒です。
※1 秒は 1000 ミリ秒　１分は 60000 ミリ秒
※入力ランプが点灯（または消灯）したと同時に判定時間をカウントし始めます。

状態を確認する(着信許可)

状態の確認を使用する場合は、ここにチェックを付けます。

【　状態の確認とは　】

通報装置に接続した FOMA 携帯電話に電話をかけると、通報装置が自動で電話に出ます。そして、現在の信号入力の状態や、停電の有無などを音声で確認できる機能です。

※38ページの「状態の確認」を参照してください。

条件は以下の 3 つの中から 1 つだけ選択できます。

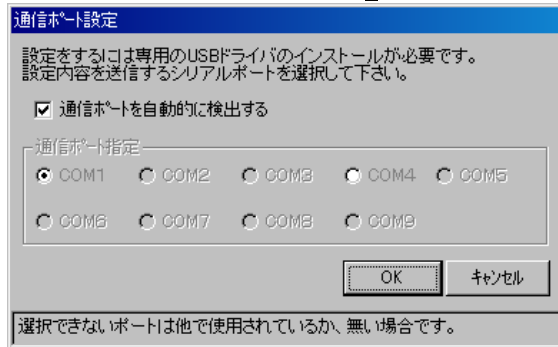
○「全て受け付ける」
全ての着信を受け付けます。

○「登録した電話番号からの着信を受け付ける」
特定の電話番号からの着信のみを受け付ける場合は、これを選択してください。
・「追加」ボタンをクリックし、着信を許可する電話番号を登録してください。
・必ず市外局番を含む電話番号で登録してください。
・最大 6 ヶ所まで電話番号が登録できます。
・登録した電話番号を削除する場合は、削除したい電話番号を選択した後に「削除」ボタンをクリックしてください。
※ここでの「登録した電話番号」は、通報先の電話番号ではありません。「追加」ボタンで電話番号を登録して下さい。

○「どの番号でも呼出音を 1 分間鳴らしたら受け付ける」
これを選択すると、どの番号から WL110F に電話がかかってきても、1 分待ってから受話器を上げ音声を再生します。

※下記の場合、通報装置へ電話をかけると呼出音の後、話中音になります。
（通報装置が着信を拒否している為です）
1．設定ソフトで、「状態を確認する」にチェックが入っていないとき
2．「登録した電話番号からの着信を受け付ける」にチェックがしてあり、登録していない電話番号からの着信があったとき

通信ポートの確認

設定内容を転送する時に使用する通信ポートを選択します。
メニューから［通信ポート設定(O)］をクリックして、下記ウィンドウを開きます。

通信ポートを自動的に検出する

「WL110F」に接続されている通信ポートを探して転送を行います。初期状態ではチェックが付いています。

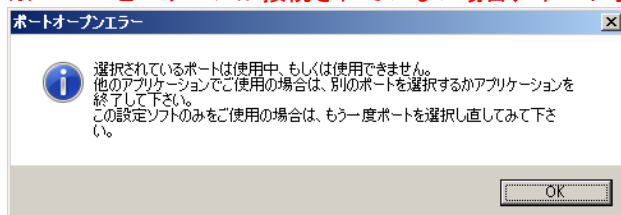
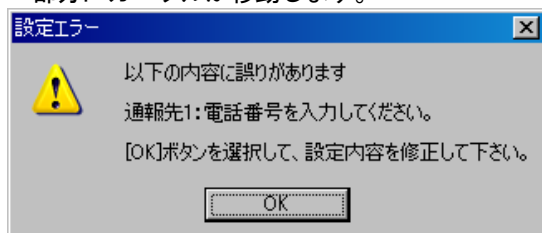
通信ポート指定

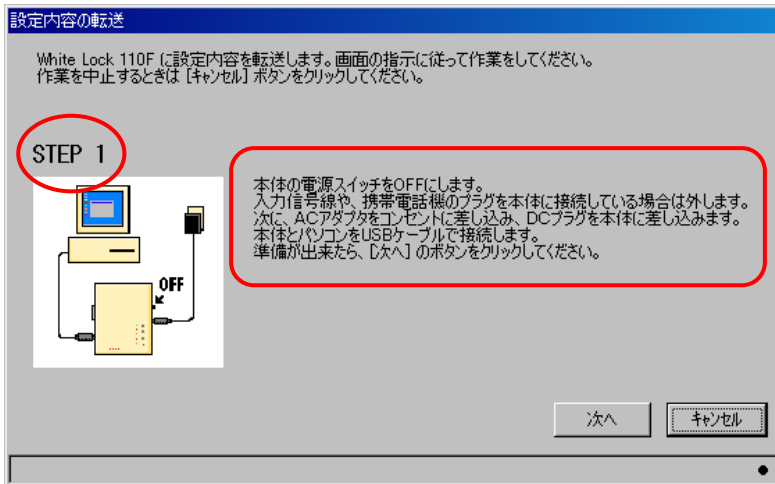
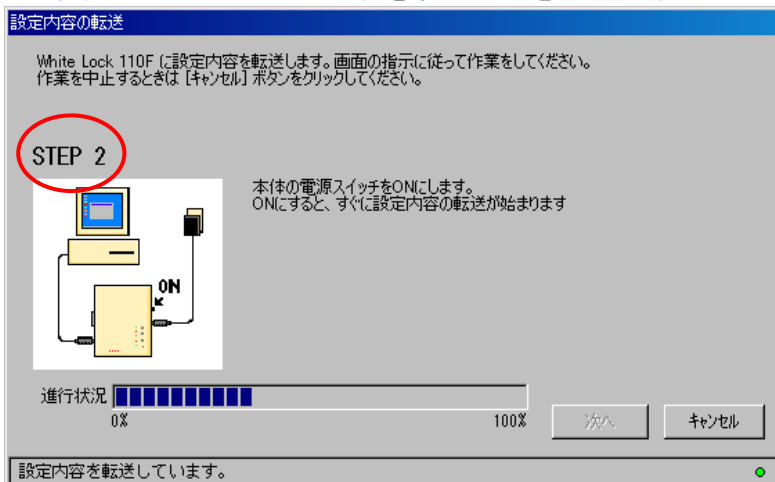
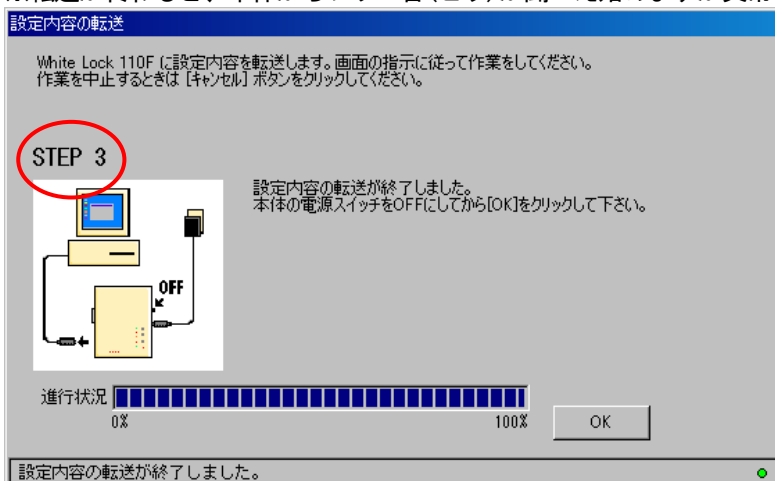
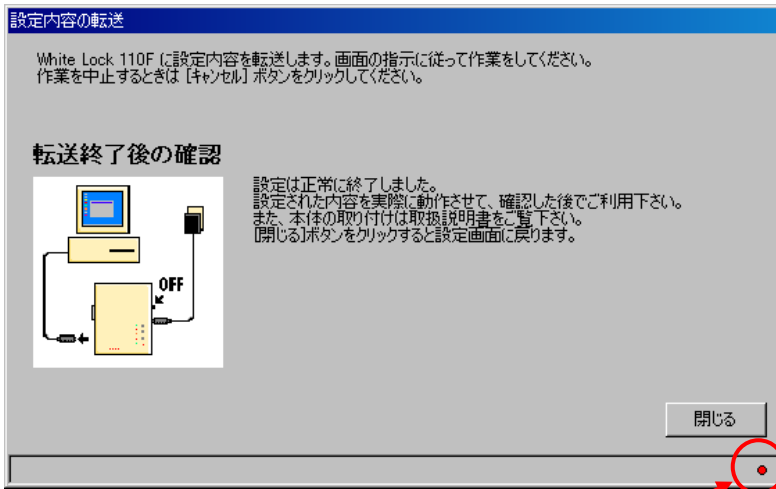
使用出来ない通信ポートは薄色（グレー）で表示され、選択できない状態になっています。転送に使用する通信ポートをマウスで選択し、[OK]ボタンをクリックします。
WL110F 設定ソフトでは COM1～COM9 を使用します。USB の場合、ポートが COM10 以上に設定される事がほとんどです。
※「通信ポートを自動的に検出する」の設定で転送がうまくいかない場合は、26ページを参照下さい。

本体とパソコンの接続

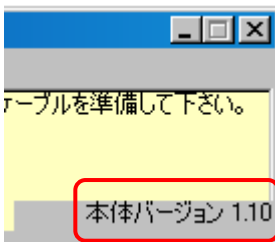
本体とパソコンを付属の「USB 通信ケーブル」で接続します。
WL110F 側は「 設定・PC 」に、パソコン側は USB のマークがあるコネクタに接続します。

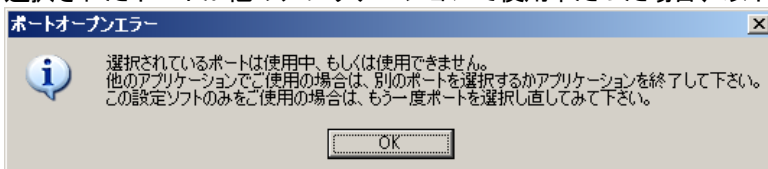
設定内容の転送

設定画面の入力が完了したら、WL110F 本体とパソコンを USB ケーブルで接続します。
次に、メニューから「設定データ転送(R)」を選択して下さい。
※WL110F とパソコンが接続されていない場合、ポートオープンエラーが表示されます。

設定画面に入力エラーがある場合は、下図のようなメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると、画面上のエラー部分にカーソルが移動します。

エラー部分を修正した後、再度「設定データ転送(R)」を選択して下さい。

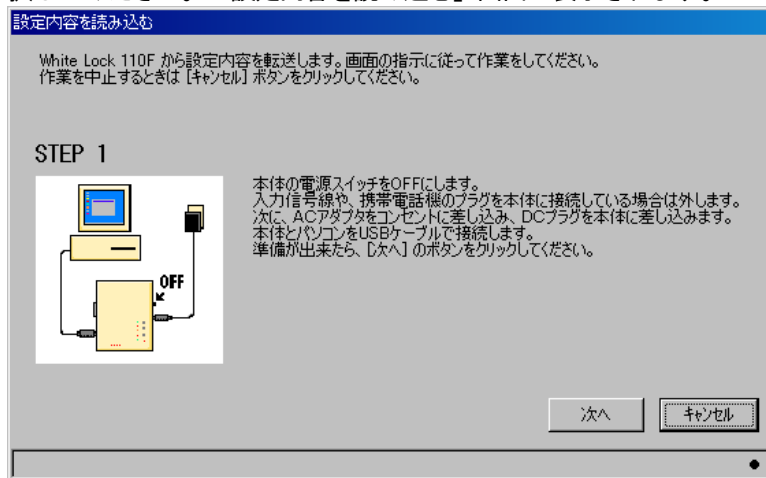
「設定内容の転送」では、製品本体に設定画面で入力された設定内容の転送作業を行います。
「STEP1」画面に表示される説明に従って AC アダプタを接続し、「次へ」のボタンをクリックします。
※必ず AC アダプタからの電源供給をしながら転送して下さい。

「STEP2」画面では、本体の電源を ON にします。自動的にデータの転送が開始され進行状況が表示されます。
※本体の電源をすぐに ON にすると、転送出来ない場合があります。STEP2 の画面では、**数秒待ってから電源スイッチを ON** にして下さい。（USB の場合、パソコンが接続された機器を認識するのに時間が掛かる為です。）
※電源スイッチを ON にしても表示されない場合は、転送がうまくいかない状態です。転送が出来ない場合は、26ページを参照下さい。
※進行状況が 100%になるまでは、電源スイッチを切ったり、USB ケーブルを抜いたりしないで下さい。

転送はすぐに終わり「STEP3」画面になります。電源スイッチを OFF にしてから「OK」ボタンをクリックします。
※転送が終わると、本体からブザー音（ピッ）が聞こえ始めますが異常ではありません。

「転送終了後の確認」画面が表示されます。

USB ケーブルを本体から外すと緑から赤へ変わります。
「閉じる」をクリックすると転送作業が終了し、設定画面に戻ります。

本体バージョンの確認

設定内容を転送したときや本体から設定内容を読み込んだときには、設定画面（右上辺り）に、本体（WL110F）のバージョンが表示されます。

ポートが使用中だった場合

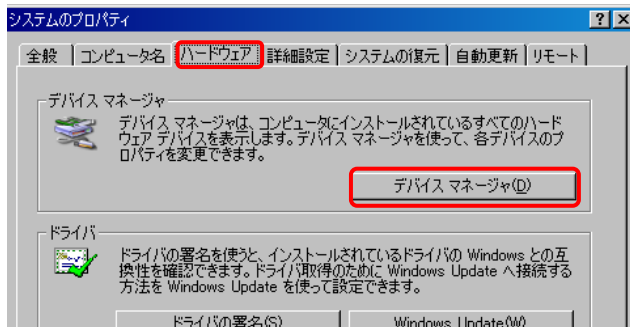
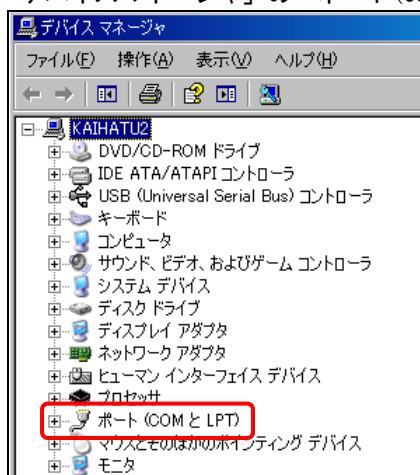
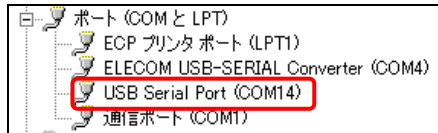
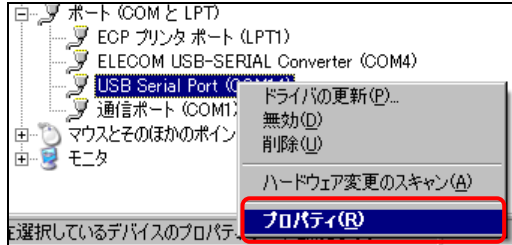
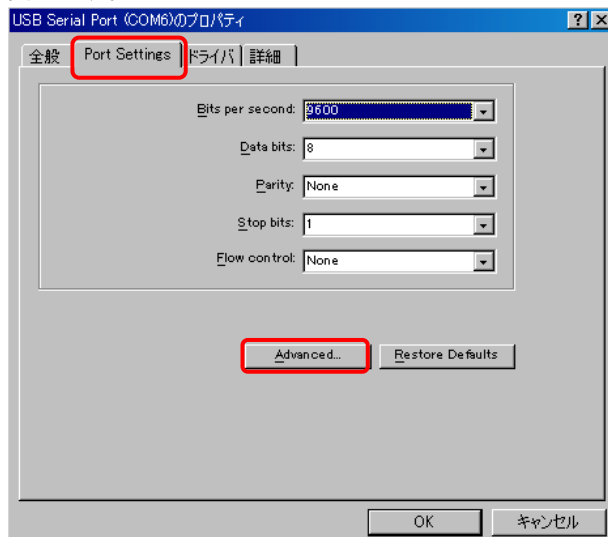
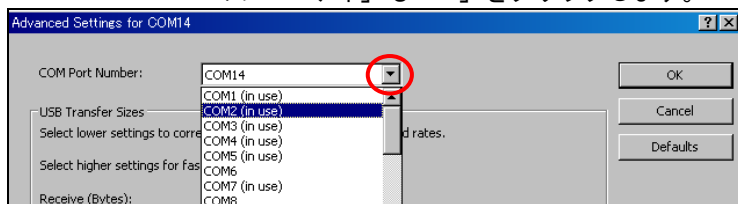
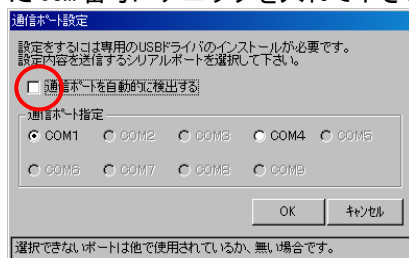
選択されたポートが他のアプリケーションで使用中だった場合、以下のダイアログが表示されます。

他のアプリケーションを終了し、ポートを使用可能にしてから転送してください。

本体から設定内容を読み込む

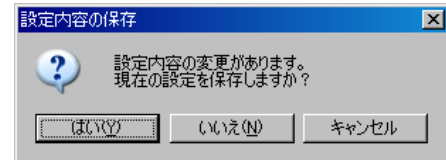
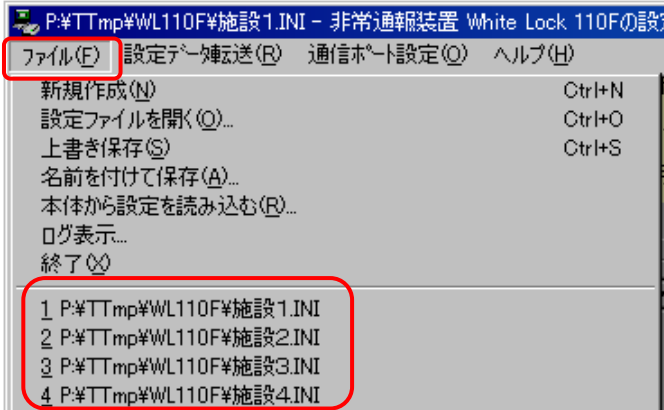
本体に現在保存されている設定を読み込みます。本体が、どのような設定になっているか確認することができます。
WL110F とパソコンを USB ケーブルで接続した状態で、「ファイル(F)」メニューの「本体から設定を読み込む(R)…」を選択してください。「設定内容を読み込む」画面が表示されます。

後は、画面の指示に従って操作をして下さい。
手順は「設定内容の転送」と同じです。転送終了後、本体から読み込んだ設定画面が表示されます。

設定内容の転送・読み込みが出来ない場合

①USB ドライバがインストールされているか確認して下さい。
※②のデバイスマネージャでインストール済みかどうかが確認出来ます。

②WL110F とパソコンを USB ケーブルで接続します。
[スタート]メニューの、[設定(S)] から [コントロールパネル(C)]の [システム] を開きます。次に「ハードウェア」のタブをクリックし、「デバイスマネージャ」を開きます。

「デバイスマネージャ」の「ポート(COM と LPT)」の＋をクリックします。

「ポート(COM と LPT)」の中に「USB Serial Port(COM〇)」が表示されれば、USB ドライバがインストール済みです。
※WL110F とパソコンが USB 通信ケーブルで繋がっている状態でないと表示されません。

COM 番号が 1～9 以外の場合は、「USB Serial Port(COM〇)」を右クリックし「プロパティ」を開きます。

「USB Serial Port のプロパティ」の「ポートの設定 (Port Settings)」タブをクリックし、「詳細設定 (Advanced…)」を開きます。

矢印をクリックし、COM1～9 のどれかを選択し「OK」をクリックします。
「USB Serial Port のプロパティ」も「OK」をクリックします。

③設定画面の「通信ポート設定(O)」をクリックします。
「通信ポートを自動的に検出する」のチェックを外し、「通信ポート指定」を有効にします。デバイスマネージャで設定した COM 番号にチェックを入れて下さい。(使用可能な COM のみチェックが入る様になっています。)

「OK」をクリックし、「設定内容の転送」または「本体から設定内容を読み込む」を行って下さい。
※上記手順で COM 番号を設定しても転送が出来ない場合は、一旦 WL110F から USB ケーブルを外し、パソコンを再起動した後に再度転送を行ってみて下さい。

設定内容の保存と読み込み

設定内容をファイルに保存したり、ファイルから読み込んだりするにはメニューの「ファイル(F)」から行います。

以前に編集したファイル
過去に開いたファイルの履歴を 10 個まで表示します。表示されているファイルを選択すると、そのファイルを開きます。
※現在の設定が保存していなければ保存するか確認してきます。

新規作成
全ての設定項目を初期状態にします。通報先は全て「(設定しない)」です。
※現在の設定が保存していなければ、保存するか確認してきます。

設定ファイルを開く
保存した設定ファイルを開く場合は、[ファイル(F)] メニューの [設定ファイルを開く(O)] を選択し、開きたい設定ファイルを選択して[開く(O)]ボタンをクリックします。
※現在の設定が保存していなければ保存するか確認してきます。

上書き保存
既に開かれているファイルに上書き保存する場合は、[ファイル(F)] メニューの [上書き保存(S)]を選択します。

名前を付けて保存
設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)]メニューの [名前をつけて保存(A)] を選択します。保存する設定ファイルは、INI の拡張子を持つファイルとなります。

本体から設定を読み込む
26ページを参照してください。

終了
設定ソフトを終了します。

録音再生

録音再生の概要

音声通報や状態の確認を使用される場合は、設定の他に録音が必要です。
録音は 8 つの録音チャンネルが用意されています。各チャンネルを録音し、通報時はこれらを組み合わせて再生されます。
各チャンネルの録音時間は最大 20 秒となります。

出荷時の録音内容

出荷時は下記内容が予め録音してあります

録音チャンネル 0　「こちらは FOMA 対応非常通報装置です」
録音チャンネル 1　「入力１」
録音チャンネル 2　「入力２」
録音チャンネル 3　「入力３」
録音チャンネル 4　「入力４」
録音チャンネル 5　「全解除」
録音チャンネル 6　「停電」
録音チャンネル 7　「復電」

録音内容の例

録音チャンネル 0　設置した場所や機械装置などの名前が判るような内容を録音します。
例：「こちらは××です」「◎◎からのお知らせです」
録音チャンネル 1～4　各入力信号 1～4 に対応した通報内容を録音します。
例：「○○の警報が発生しました」「○○の故障が発生しました」
録音チャンネル 5　全入力信号が解除したときに通報する内容を録音します。
例：「全ての警報は解除しました」「全ての故障は解除しました」
録音チャンネル 6　停電が発生した際に通報する内容を録音します。
例：「停電が発生しました」「外部電源装置が故障しました」
録音チャンネル 7　復電したときに通報する内容を録音します。
例：「復電しました」「外部電源装置が復帰しました」

通報時の再生例（通常通報を受けた時）

●入力信号が「有り」になったとき
「こちらは××です。○○の警報が発生しました。」
「◎◎からのお知らせです。○○の故障が発生しました。」

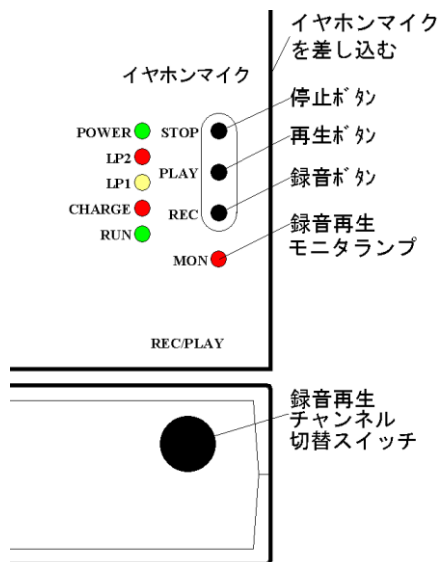
●全入力が「無い」になったとき
「こちらは××です。全ての警報は解除しました。」
「◎◎からのお知らせです。全ての故障は解除しました。」

●停電が発生したとき
「こちらは××です。停電が発生しました。」
「◎◎からのお知らせです。外部電源装置が故障しました。」

●復電したとき
「こちらは××です。復電しました。」
「◎◎からのお知らせです。外部電源装置が復帰しました。」

録音再生の操作方法

録音は、付属のイヤホンマイクで行います。AC アダプタとイヤホンマイクを本体に接続してください。イヤホンマイクは、本体右側面の差込口にコードが本体下に出る方向に挿してください。録音再生チャンネルの切替は本体側面下側にあります(REC/PLAY CHANNEL)。

* 録音再生をするときは、必ず AC アダプタを接続して下さい。イヤホンマイクと AC アダプタ以外は繋げないで下さい。
* 設定用 USB 通信ケーブル、携帯ケーブルは本体から外して下さい。入力信号端子台に電線が接続してあるときは本体下方向に抜き外して下さい。携帯ケーブルと FOMA 携帯電話機が繋がった状態ですと、設定内容によっては通報が始まる場合がありますのでご注意下さい。
* FOMA 携帯電話機を接続したままで録音再生した場合、雑音が混入したり、ひずんで聞こえたりすることがあります。
* 音声通報を携帯電話で受けた場合、電波の状況によっては音質が悪くなることがあります。
* 録音するときは周りに騒音の無い場所で行って下さい。
* 本体には音量調節がありません。録音時の声の大きさやマイクとの距離で調整してください。
* 録音したら必ず再生して内容を確認して下さい。
* チャンネル番号と録音内容を間違えない様にご注意下さい。
* 電源を入れると、「ピッ」と継続ブザーが鳴り出しますが、その状態で録音を続けて下さい。

1. 最初に録音するチャンネルを「録音再生チャンネル切替スイッチ」で選択します。手でチャンネルつまみを回して下さい。見えている番号が現在のチャンネルになります。（スイッチカバーが無い場合は、小さいマイナスドライバーで回して下さい。矢印の指している番号が現在のチャンネルになります。）

2. 電源を ON にします。POWER ランプと LP1・LP2 が点灯し、「ピッ」と継続ブザーが鳴ります。

3. 録音(REC)ボタンと停止(STOP)ボタンを同時に押します。録音状態になると、MON ランプが点灯します。

4. イヤホンマイクに向かって録音する内容をお話しください。MON ランプが点灯してから 20 秒が経過すると自動的に MON ランプが消えて録音が終了します。任意の位置までで、録音を停止させたいときは停止(STOP)ボタンを押します。

5. 録音が終わったら再生(PLAY)ボタンを押します。MON ランプが点灯し、イヤホンから再生されます。
途中で再生を停止させたい場合は停止(STOP)ボタンを押します。

6. 録音が終わったら電源を OFF にして、イヤホンマイクを本体から抜いてください。

＊ 録音のコツ

録音状態になったら、すぐに発声します。録音内容を発声し終わった時も、すぐに停止ボタンを押します。実際の通報では複数のチャンネルを組み合わせて再生しますので、できるだけ無音が入らない様にしてください。慣れてくれば無音の状態が少なくなるように録音できるようになります。

※録音再生設定が終了したら、必ず「チャンネル切替スイッチ」を「 0 」にして下さい。

FOMA 携帯電話機の設定と接続

FOMA 携帯電話機の設定

注）必ず、設定する前に FOMA 携帯電話機の電源を入れて、電話がかけられる事を確認して下さい。

●「USB モード設定」で「通信モード」に設定して下さい。
※設定方法は各 FOMA 携帯電話機の説明書をお読みください。

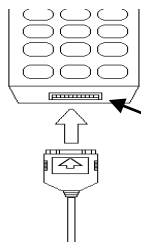
●FOMA 携帯電話機のバッテリー消費を抑える為、以下の設定をして下さい。
・「省電力モード」にして下さい。
・着信バイブレータは OFF にして下さい。
・伝言メモ機能は OFF にして下さい。

●状態の確認（着信許可）をする場合は「ドライブモード」に設定しないで下さい。状態の確認が出来ません。

●「PIN1 コード」の設定はしないで下さい。
※「PIN1 コード」が設定してありますと、WhiteLock110F が正常に動作出来ません。
その他、ロックが掛かるような設定はしないで下さい。WhiteLock110F はロックを解除して通報を行う事が出来ない為、WhiteLock110F と FOMA 携帯電話機との通信の妨げの原因となり、正常動作しなくなります。

FOMA 携帯電話機の接続

注）FOMA 携帯電話機の電源が入らないほどバッテリーが無い場合や、バッテリーレベルが最低レベル（3 分の 1、または 5 分の 1）の場合は、数分間専用充電器で充電をしてから通報装置に接続して下さい。
（※WL110F 本体 Ver1.22 以降はバッテリー残が無い場合でも、通報装置に接続出来ます）

本体に付属の携帯ケーブルを接続します。
次に携帯ケーブルの携帯プラグ側を FOMA 携帯電話機の外部接続端子に接続します。
コネクタは、「カチッ」と音がしてロックされるように差し込みます。
※コネクタの差す方向を間違えないよう、水平に差して下さい。
コネクタを外す場合は、プラグ横のロックボタンをつまみながら引き抜いてください。
必ず FOMA 携帯電話機の電源を OFF の状態でコネクタを接続し、WL110F の電源を ON にすると FOMA 携帯電話機の電源が ON になることを確認下さい。

FOMA 携帯電話機の機種によって、外部接続端子の位置が異なります。
位置は各携帯電話機の取扱説明書で確認して下さい。

FOMA 携帯電話機への充電について

FOMA 携帯電話機への自動充電

FOMA携帯電話機のバッテリー残量表示が3分の1（または5分の1）になると自動充電を開始します。
※充電時間は約130分間です。
※充電中は本体のCHARGE ランプが点灯しますが、FOMA携帯電話機が早期に満充電になった場合には、FOMA携帯電話機の充電ランプが先に消灯することがあります。
※ACアダプタから電源が供給され、RUNランプが点滅（正常運転時）しているときに限ります。
※電池駆動時は携帯電話機の充電は行いません。

FOMA 携帯電話機への初期充電

FOMA携帯電話機のバッテリー残量が、完全に無い状態でWL110Fの電源をONにした場合に初期充電を開始します。（WL110F本体バージョンVer1.22以降）

1.断続ブザーが20秒間鳴った後、FOMA携帯電話機の充電を開始します。
2.5分間充電したところで、充電を一旦停止します。
3.その後10秒経過して再び充電を開始します。
4.10秒間充電したところで、充電を終了して通常運転になります。
5.運転状態に入ってからFOMA携帯電話機のバッテリー残量が3分の1（または5分の1）になると追加充電を開始し、FOMA携帯電話機が満充電になるまで充電し続けます。

FOMA 携帯電話機への強制充電

手動による強制充電の方法
1.STOPボタンを押しながら通報装置WL110Fの電源をONにします。
2.CHARGEランプが点灯したらSTOPボタンから手を離します。
※CHARGEランプが点滅する場合がありますが、点灯するまでSTOPボタンを押し続けて下さい。
3.FOMA携帯電話機への充電が終わっていても、130分間はCHARGEランプが点灯し続けます。
※WL110F本体バージョンがVer1.21の場合は、FOMA携帯電話機の充電が完全に空の場合は、専用充電器で数分間充電してから行って下さい。

WL110F本体Ver1.22以降

（WL110F の本体バージョンが 2010 年 5 月 1 日出荷分より Ver1.22 になりました。設定ソフトで本体バージョンの確認が可能です。25ページを参照下さい。）

FOMA 携帯電話機の機種によっては､FOMA 携帯電話機の電源 OFF の状態で WL110F の電源 ON にした時に初期充電が始まります。初期充電終了後に通常運転になります。

使用上の注意事項

●着信時に着信音は鳴りません。通話も出来ません。
●WL110F に接続された FOMA 携帯電話機は、必ず WL110F の電源を切った状態で携帯ケーブル（または WL110F）から外して下さい。WL110F の電源が入った状態で携帯電話を携帯ケーブル（または WL110F）から外されますと、故障する恐れがありますので絶対にお止め下さい。
●折りたたみ式の携帯電話機は、折りたたんだ状態で WL110F との接続、使用が可能です。
●FOMA 携帯電話機のボタン操作で FOMA 携帯電話機の電源を切る事はできません。FOMA 携帯電話機の電源を切る場合は、WL110F の電源を切った後、FOMA 携帯電話機のボタン操作で電源を OFF にしてください。
●FOMA携帯電話機の電源ボタン以外のボタン操作は、機種により可能なものもあります。監視・通報中は誤動作を避ける為にボタン操作はしないでください。また、監視・通報中にFOMA携帯電話機のプラグを抜いた場合にも誤動作します。
●停電時(ACアダプタから電源供給がない状態)は、FOMA携帯電話機への充電はできません。
●FOMA 携帯電話機の電池は消耗品ですので、1 年を目途に交換して下さい。
●FOMA携帯電話の充電中に｢WL110F｣本体が暖かくなることがありますが、故障ではありません。
●使用出来る環境温度範囲は**5℃～35℃**です。温度範囲外でのご使用は出来ません。また、使用中に温度範囲外になりますと、FOMA携帯電話機が正常に動作しなくなり、WL110Fからの自動充電する事が出来なくなりますので、ご注意下さい。

【高温対策】
直射日光がケースに当たる環境では､気温 40℃の場合ケース内部は 60℃以上にも達します。遮熱板 を取り付けて下さい。また、市販の盤用ファンや盤用クーラーを使用されるのも良いでしょう。
※遮熱板とは ・・・ケースの周囲に設置する板です。ケースから少し離し板を配置し、直射日光が内部のケースに当たらないようにします。ケースと板の間に隙間が出来、空気がその隙間を流れるので、ケース内部は外気温に近い温度を保持することができます。

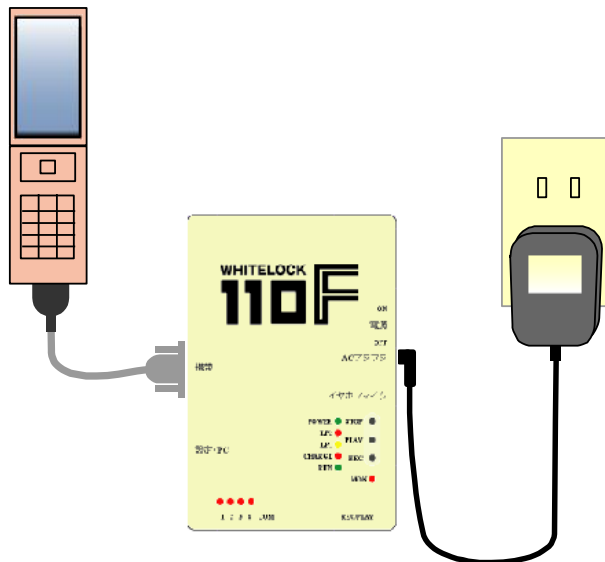
【低温対策】
WL110Fの電源が入っている時は、WL110F本体やACアダプタから放熱されます。ケース内側に発砲スチロールを貼り付けるだけでも保温効果があります。盤用ヒーターも市販品で有りますし、ケース内に電球を点けるだけでも保温になります。その場合は、サーモスタット（バイメタル式）を使うと便利です。

動作確認

本体と FOMA 携帯電話機の設定が終了したら、設定通りに動作するかを必ず確認して下さい。

1. 「電源スイッチ」を OFF にします。
2. AC アダプタの電源プラグ側を本体の「AC アダプタ」に接続し、AC アダプタを電源コンセントに差し込みます。接続方法は「AC アダプタの接続」41ページを参照下さい。
3. FOMA 携帯電話機の電源を切った状態で、付属の携帯ケーブルで本体と接続します。接続方法は「FOMA 携帯電話機の接続」31ページを参照下さい。
4. 「チャンネル切替スイッチ」が「 0 」になっていることを確認します。
5. 「電源スイッチ」を ON にします。
6. FOMA 携帯電話機との通信が確立するまで待ちます。通信が確立すると、RUN ランプが点滅し始めます。詳しくは「表示モニタランプ」43ページを参照下さい。
7. 各入力信号の端子と、共通端子をリード線等で結線させ通報させます。（40ページ参照）

◎音声通報の場合　・・・通報先に電話がかかり、音声メッセージが流れるかを確認します。
◎タダ電通報の場合・・・通報先の呼出音が鳴って切れた後で、着信履歴を確認してください。

※下図のように、FOMA 携帯電話機と AC アダプタを接続して動作確認を行ってください。

呼出の種類と通話時間

通報の種類

通報には「音声通報」「タダ電通報」の 2 種類があります。

音声通報

音声通報は、固定電話、携帯電話、PHS 等へお客様がご自分で録音した音声で通報します。

タダ電通報

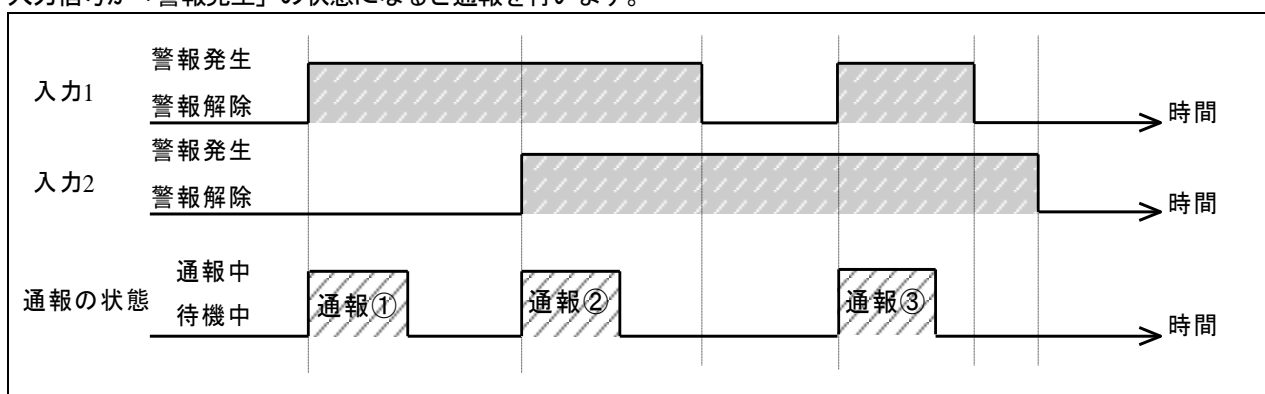
タダ電通報は、通報先の電話機の呼出音を鳴らした後に電話を切ります。呼出音を鳴らすだけなので通話料金はかかりません。通報先には着信履歴が確認できる電話機を設定し、電話帳に通報装置や設置場所を登録しておくと良いでしょう。また、「WL110F」の設定で自動着信を許可するように設定しておけば、タダ電通報を受けた後で WL110F に電話をかけて、入力信号の状態を音声で確認することが出来ます。
※通報先が電話に出た場合、通話料金が発生しますのでご注意下さい。また、電話に出た後、通報先から電話を切らない場合は、120 秒後に「WL110F」が電話を切りますが、正常に通報できていないと判断しリダイヤルします。
※通報先は、自動着信する留守番電話サービスなどを設定しない様にして下さい。動作には問題ありませんが、料金が発生し、タダ電本来の目的から外れます。

1 回の通報にかかる通話時間

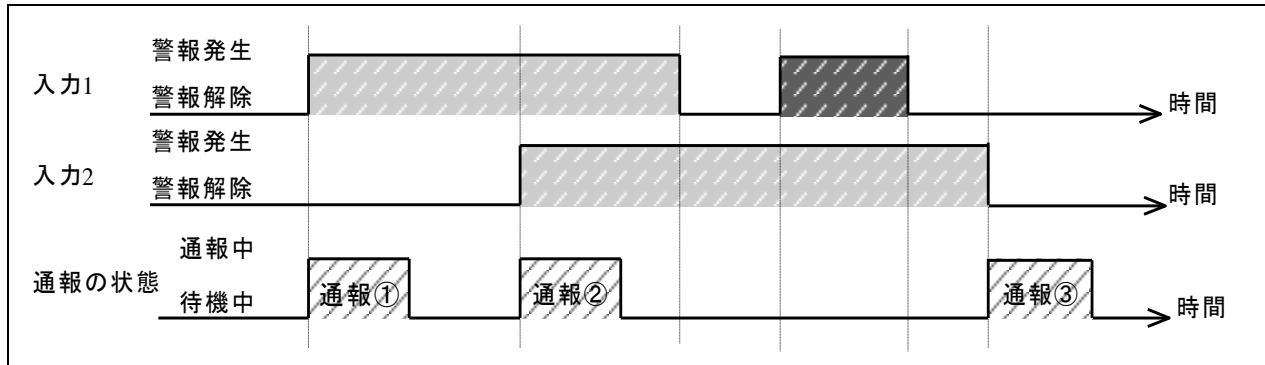
「音声通報」の場合は、通報先が受話器を上げている時間によって異なります。但し、通報 1 回当たり最大 120 秒を過ぎると本体が自動的に電話を切ります。この場合、通報が正常に終わっていないものと判断しリダイヤルします。

「タダ電通報」の場合は、呼出音を鳴らすだけなので通報先が電話に出ない限り通話料はかかりません。
※通報先が電話に出ない場合に限ります。（例えば自動着信する留守番電話サービスなどは通話料が発生しますのでご注意下さい）

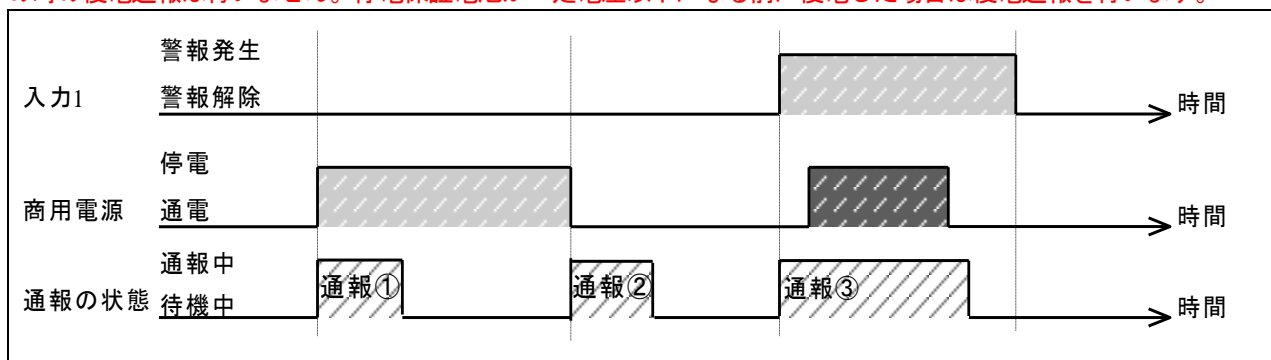
標準設定の時

入力信号が「警報発生」の状態になると通報を行います。

１. 入力信号１「警報発生」… 通報する（通報①）
２. 入力信号２「警報発生」… 通報する（通報②）
３. 入力信号１「警報解除」… 通報しない
４. 入力信号１「警報発生」… 通報する（通報③）
５. 入力信号１「警報解除」… 通報しない
６. 入力信号２「警報解除」… 通報しない（全解除呼出の設定がしていないとき）

全解除呼出設定

「全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います」にチェックを入れた場合、全ての入力信号が「警報解除」の状態になると「全解除通報」を行います。
注）通報開始より「全解除通報」までの間、既に通報済みの入力信号の「警報発生」は通報しません。全ての入力信号が「警報解除」になった後に「警報発生」になると通報します。

1．入力信号１「警報発生」…　通報する（通報①）
2．入力信号２「警報発生」…　通報する（通報②）
3．入力信号１「警報解除」…　通報しない
4．入力信号１「警報発生」…　通報しない（通報を行ってから「全解除通報」していないため）
5．入力信号１「警報解除」…　通報しない
6．入力信号２「警報解除」…　全解除通報する（通報③）

停電時発信

「停電や復電時に通報する」にチェックを入れた場合、商用電源からの電源供給が無くなった時に「停電通報」を、商用電源が復電した時に「復電通報」を行います。
注）停電通報後、停電保証電池の残量が一定電圧以下になると、本体は停止します。復電時に本体は再起動しますが、この時の復電通報は行いません。停電保証電池が一定電圧以下になる前に復電した場合は復電通報を行います。

1．商用電源　「停電発生」…　停電通報する（通報①）
2．商用電源　「停電解除」…　復電通報する（通報②）
3．入力信号１「警報発生」…　通報する（通報③）
4．商用電源　「停電発生」…　停電通報しない（入力信号１の通報中のため）
5．商用電源　「停電解除」…　復電通報しない（停電通報を行っていないため）

通報終了の条件

1 つの通報先を終了する条件

通報が終了したと判定される条件

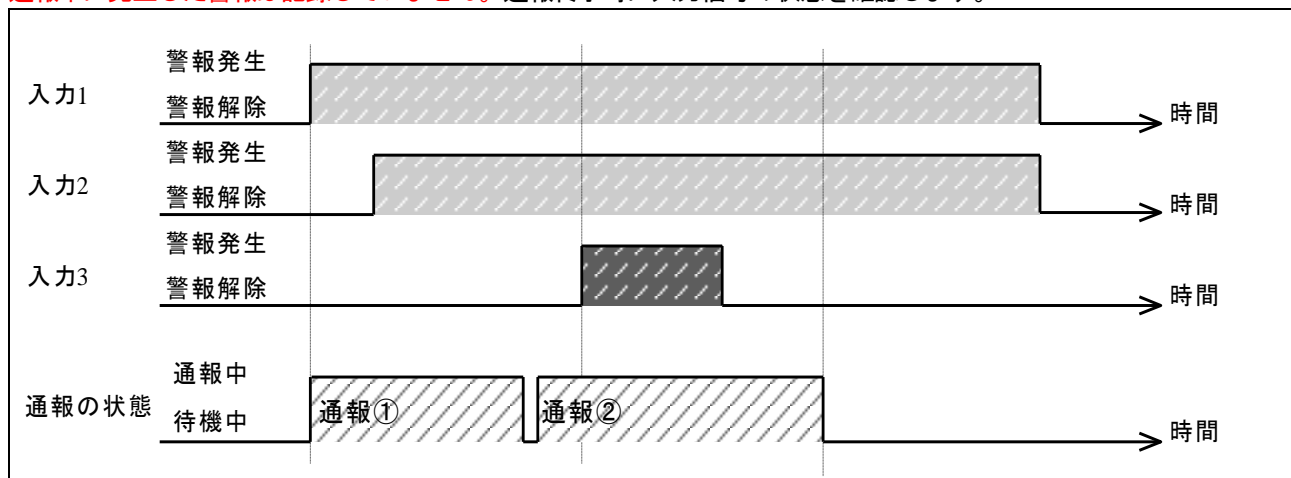
- 音声通報の場合、通報先が電話に出てから 120 秒以内に電話を切ると、その通報先への通報は終了となります。（60 秒以内に電話に出ないとき、一旦電話を切ってかけ直す動作をします。）
※通報先が話中の場合、リダイヤルします。
※通報先が携帯電話の場合、圏外や電源 OFF、ドライブモードに設定されている時もリダイヤルします。

- タダ電通報の場合、WL110F が通報先の着信を確認できたら、その通報先への通報は終了となります。通報先の呼出音が鳴る回数は不定です。
※通報先が話中の場合、リダイヤルします。
※通報先が、不在着信サービス（携帯電話機が電源 OFF 時や圏外時の着信をショートメッセージサービス [SMS] でお知らせするサービス）を設定している場合や、伝言メモを設定している場合、通報は終了しリダイヤルしません。
※通報先がドライブモードに設定されている場合は、リダイヤルします。

複数の通報先を終了する条件

- 通報する順番は通報先1～6の順に行います。
- 全ての通報が終了するまで通報先1～6を繰り返し行います。
- 通報が正常に終了した通報先には通報しません。順番を飛ばします。
- 通報先が話中、圏外などで正常に通報出来なかった場合は、次の通報先へダイヤルします。
- 複数の通報先を設定した場合、「必ず通報」か「何所か1ヵ所」の設定により終了条件が変わります。
- 「必ず通報」の設定をした通報先は、他の通報先とは関係なく成功するまで行います。
- 「何所か1ヵ所」を通報先1ヵ所へ設定した場合は、必ず通報します。
- 6ヵ所すべて「必ず通報」に設定した場合、6ヵ所すべてが正常に通報するまで繰り返します。
- 6ヵ所すべて「何所か1ヵ所」に設定した場合、6ヵ所のうち何所か1ヵ所でも正常に通報出来ると、残りの5ヵ所には通報しません。
- 複数の通報先の中に、「何所か1ヵ所」に設定した通報先が1つだけのとき、「何所か1ヵ所」の設定は無視されて必ず通報します。「何所か1ヵ所」の設定を有効にする為には、「何所か1ヵ所」に設定する通報先が複数必要となります。「何所か1ヵ所」に設定した通報先が2つあるときは、2つのうちどちらか1ヶ所に通報します。

通報が終了するまでに発生した警報

通報中に発生した新たな警報は、現時の通報が設定通りに終了しない限り通報を開始しません。
通報中に発生した警報は記録していません。通報終了時に入力信号の状態を確認します。

1．入力信号１「警報発生」…　通報する（通報①）
2．入力信号２「警報発生」…　通報①が終了後に通報する（通報②）
3．入力信号３「警報発生」…　通報しない（通報②が通報中に発生し解除したため）

リダイヤルについて

通報が正常に終了しない場合、LP1 が 10 秒間低速点滅して再度電話をかけます。
また、同じ通報先へ連続してダイヤルすると、FOMA携帯電話機がリダイヤル規制にかかります。
リダイヤル規制にかかると、WL110Fが「ブーッ」とブザーを鳴らした後、一旦携帯電話機を再起動させ30秒後に再度リダイヤルを開始します。

注意事項

「必ず通報」に設定した通報先や「何所か１ヶ所」に設定した通報先が１つの場合は、通報先の受信状態に注意が必要です。
次の場合はリダイヤルし続けます。
※通報先が話中や電話に出ない時（音声通報のみ）。
※通報先が携帯電話機の場合、ドライブモードに設定してある時。
※伝言メモ・留守番電話サービスの呼出時間を０秒に設定してある時（音声通報のみ）。
※通報先が携帯電話機の場合、圏外・電源 OFF・バッテリーが無くなっている時。（携帯電話機が不在着信サービスに対応している場合には、タダ電通報は正常終了します）

通報中に発生した新たな警報についての通報は直ぐには行いませんのでご注意下さい。

状態の確認

入力信号の状態を確認するとき（着信許可）

本体に接続しているFOMA携帯電話機に電話をかけ、入力信号の状態（着信時）を確認することができます。この機能を使う場合は、予め設定をしておく必要があります。また、着信機能を使用しない設定もできます。

入力信号の状態を音声で聞く

1.「WL110F」に電話をかけます。
2.「WL110F」が自動着信します。
3.入力信号の状態が音声で繰り返し聞こえます。
　例1：入力1、入力2がONの場合
　　音声チャンネル0「こちらは××です」
　　音声チャンネル1「入力1がONです」
　　音声チャンネル2「入力2がONです」
　　この3つの音声が繰り返し聞こえます。
　例2：設定ソフトで停電通報がONで停電状態の場合
　　音声チャンネル0「こちらは××です」
　　音声チャンネル6「停電が発生しました」
　　この2つの音声が繰り返し聞こえます。
　例3：入力が全てOFFの場合
　　音声チャンネル0「こちらは××です」
　　音声チャンネル5「全ての警報は解除しました」
　　この2つの音声が繰り返し聞こえます。
4.音声を確認したら電話を切ります。本体が着信してから120秒以内に電話をかけた人が電話を切らない場合は本体が電話を切ります。

音声再生の条件は、本体が着信した瞬間の入力信号の状態です。3.の状態でメッセージを聞き続け、その間に入力信号が変わっても音声再生の条件は変わりません。

発信者を制限する

設定で発信者を制限できます。発信者を制限する方法は以下の3種類から選択できます。
1. 発信者を制限しないで、無条件に着信する。
2. あらかじめ登録された電話からかかってきた場合のみ着信します。
　※登録できる電話番号は6つまでです。
3. 発信者を制限せず、1分間呼出音が鳴ったら着信する。

注意事項

●本体が通報中や着信処理中の場合は話し中になります。条件によって通報が完了するまでに長い時間を必要とすることがあります。この場合は少し時間をおいてからかけ直して下さい。
●着信動作中に入力信号がONになりOFFになったとき、あるいは逆にOFFになりONになったときは、電話が切れた後に通報しません。
●下記の条件とき、通報装置へ電話をかけると通報装置が着信を拒否して、話中音が聞こえます。
1.設定ソフトで、「状態を確認する」にチェックが入っていないとき
2.「登録した電話番号からの着信を受け付ける」の登録があるときで、登録した電話以外から着信があったとき。

設置方法

設置場所を決める

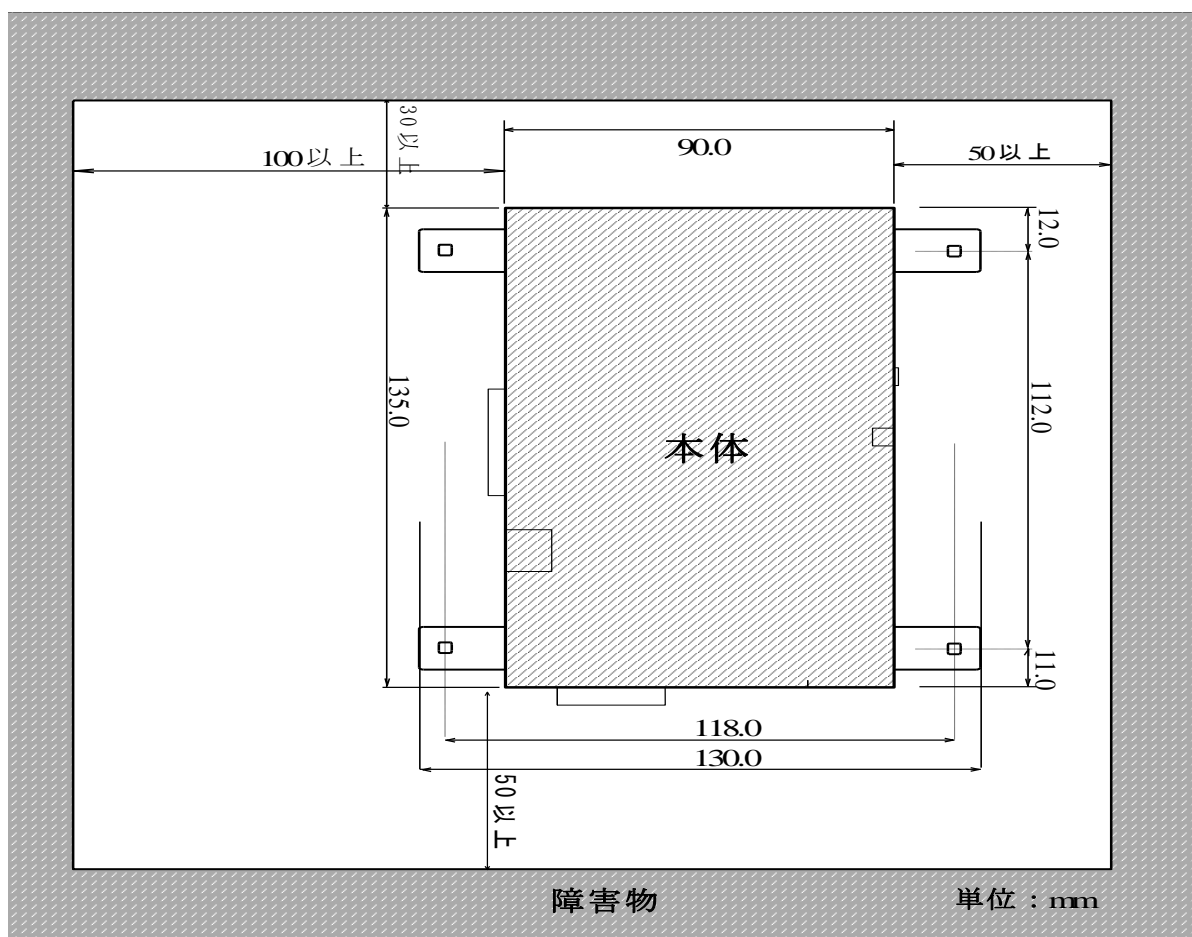
WL110F を設置する前に本書の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。壁や天井などに取り付ける場合は、付属の取付足をご使用下さい。また、本体と接続されるケーブルが余裕をもって設置出来るような空間を確保して下さい。

接続工事

本体側の FOMA 携帯電話機

NTT ドコモの FOMA 携帯電話機を接続します。PHS には接続出来ません。
※FOMA 携帯電話機と携帯ケーブルが繋がっているコネクタ部分を市販のケーブル止めなどで固定して下さい。

取付位置図

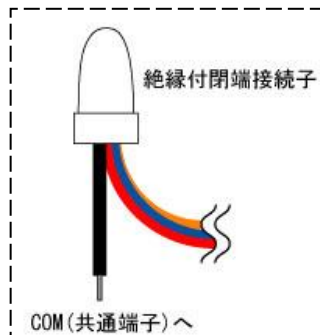
取付位置は下図を参照下さい。

入力端子接続

接続

各信号はCOM（共通端子）と1～4の間に接続します。COM（共通端子）は端子の端ですので、お間違えのないように接続して下さい。信号は無電圧a接点（無電圧b接点）、又はオープンコレクタを接続します。
※接続できる信号は無電圧のものに限ります。商用（AC）100Vや直流電圧がかからないようにしてください。
※設定ソフトで各入力のa接点、b接点を変更することもできます。
※1つの入力に複数の入力を並列に接続して一括故障などとすることもできます。
※入力信号は700ミリ秒以上(初期値)の間継続してON(OFF)の時に、入力の変化があったとみなします。

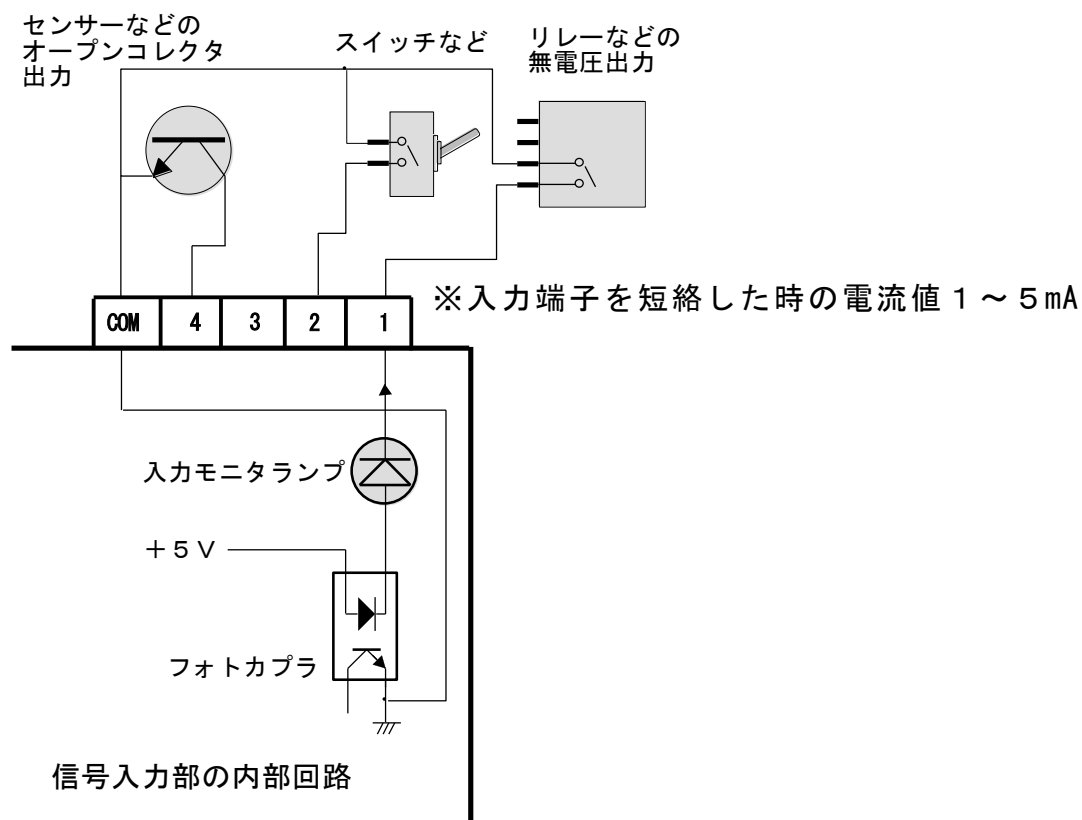
端子台

信号入力はコネクタ端子台になっています。端子台は圧着端子不要のワンタッチ式（又は押締方式）で直接電線を接続できます。配線工事、メンテナンスの際にはワンタッチでコネクタ端子台を抜いて配線作業が行えます。

【ネジ締め式端子台】
信号入出力コネクタの接続電線範囲　AWG28～AWG16　単線0.5Φ～1.3Φ
電線むき長さ7mm
締めつけトルク 0.22～0.25N･m
単線　又は　より線
注意:電線の先端は予備ハンダをしないでください。
【ワンタッチ端子台】
信号入出力コネクタの接続電線範囲　AWG24～AWG16　単線0.5Φ～1.3Φ
電線むき長さ9～10mm
単線　又は　より線（棒端子併用を推奨）
＊電線を端子に接続後は引っ張るなどし、抜けないことを確認下さい。まれに端子内部の金具に挟まっていない場合があります。
＊複数の信号線をCOM（共通端子）に接続する際は、絶縁付閉端接続子でまとめて下さい。
（下図参照）

取付足

本体を固定する場合は、ケース裏面のビス4個を外し、付属の「取付足」を取付足専用のビスで図のように取り付けて下さい。
注意:付属のビス以外のもの使うとケースの表面にネジ頭が飛び出ることがあります。
※固定用ビスは、M3サイズです。

信号入力部の内部回路

信号入力部の内部回路

AC アダプタの接続

アダプタから伸びているコードプラグを WL110F の「AC アダプタ」にさし込み、AC アダプタ本体をコンセントに差し込みます。
※POWER ランプ（緑）は電源スイッチ ON の時、AC アダプタから電源供給が無いときでも内蔵電池から電気が供給されていると点灯します。
※制御盤内部の AC コンセントを利用する場合、AC コンセントに電気が来ていない事があります。制御盤内部のブレーカーやスイッチでコンセント電源を入り切り出来る場合はご注意ください。内蔵電池を取り外した状態で「電源」を ON にしたとき POWER ランプ（緑）が点灯すればコンセントに電気がきています。

運転の開始

実際に現場に取り付けて使用するときは、次のことに注意してください
・「STOP」「PLAY」「REC」ボタンを押さないで下さい。通常の監視状態でも録音再生が可能になっていますが、音声再生中や録音中は通報できません。
・運用中はイヤホンを差したり抜いたりしないでください。
・音声チャンネルは 0 にしてください。

通報の受信

受信装置

音声通報、タダ電通報を受信できるのは、一般電話機、携帯電話機、PHS です。

音声通報を電話機で受信したとき

1. 電話のベルが鳴ったら受話器をとります。
2. 最初に録音チャンネル 0 のメッセージ再生が聞こえ、続いて該当する入力信号に対応するメッセージ再生が聞こえます。受話器を上げている間は、繰り返し再生します。
3. 120 秒以内に受話器を下ろせば、通報装置は正しく相手に通報できたと認識して、以後通報はしません。

※ダイヤルを開始してから、60 秒を過ぎると通報装置が電話を切ります。この場合はしばらく待つと再び電話がかかってきます。

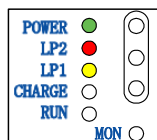
動作モニタ

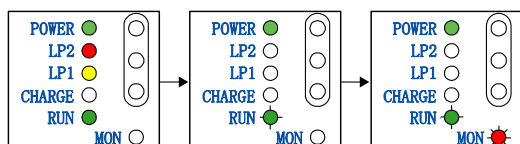
表示モニタランプ

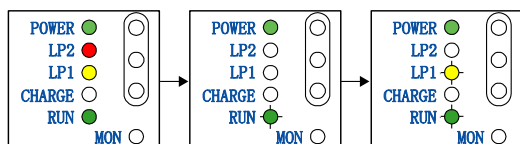
電源を入れた時

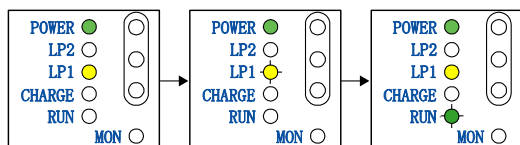
電源 ON で POWER（緑）ランプが点灯します。その他のランプは動作によって変わります。

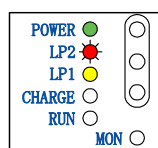
FOMA 携帯電話機を携帯ケーブルで接続していない場合

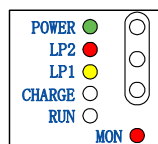
電源 ON で LP1（黄）・LP2（赤）・POWER（緑）が点灯します。
「ピッ」とブザーが鳴り続けます。

FOMA 携帯電話機を携帯ケーブルで接続している場合

電源 ON で LP1（黄）・LP2（赤）・POWER（緑）が点灯し、「ピッ」とブザーが 1 度鳴ります。
FOMA 携帯電話機と WL110F の通信が確立すると LP1（黄）・LP2（赤）が消灯し、RUN（緑）が点滅します。
※電池駆動（AC アダプタから電源供給が無い状態）の場合のみ、通信の確立後に MON（赤）が高速点滅（2 秒間）します。

「全体の設定」で「電源 ON 時に 60 秒間入力信号を無視する」にチェックが入っている場合

電源 ON で LP1（黄）・LP2（赤）・POWER（緑）が点灯し、「ピッ」とブザーが 1 度鳴ります。
FOMA 携帯電話機と WL110F の通信が確立すると LP1（黄）・LP2（赤）が消灯し、RUN（緑）が点滅します。LP1（黄）が 60 秒間低速点滅します。（この間は通報しません）

リダイヤル規制にかかったとき

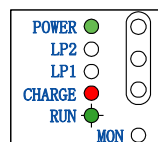
同じ通報先へ連続してダイヤルすると、FOMA携帯電話機がリダイヤル規制にかかります。
リダイヤル規制にかかると、WL110Fから「ブーッ」とブザーが鳴り、「LP1（黄）」は点灯し、「RUN（緑）」は消灯します。
そして「LP1（黄）」が0.5秒間隔に点滅します。しばらくすると「ピッ」とブザーが鳴り、「RUN（緑）」が点灯します。
そして「LP1（黄）」が点灯し、「RUN（緑）」が点滅し、リダイヤルが再開します。

設定内容転送中（又は読込中）のとき

「LP1（黄）」は点灯、「LP2（赤）」は高速点滅。

録音・再生中のとき

「MON（赤）」が点灯。

FOMA 携帯電話機に充電しているとき

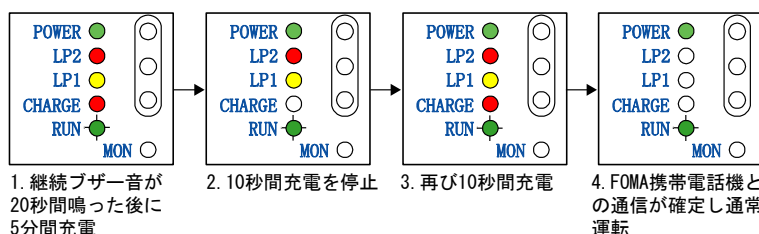
CHARGE（赤）が点灯します。

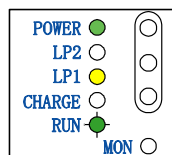
FOMA携帯電話機のバッテリー残量表示が3分の1（または5分の1）になると充電を開始します。

※ACアダプタから電源が供給され、RUNランプが点滅(正常運転時)しているときに限ります。

FOMA 携帯電話機のバッテリー残量が無い状態で WL110F の電源を ON にしたとき（初期充電）

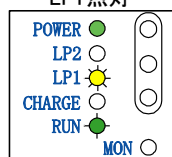
Ver1.22 以降対応

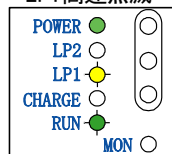
（WL110F の本体バージョンが 2010 年 5 月 1 日出荷分より Ver1.22 になりました。
設定ソフトで本体バージョンの確認が可能です。取扱説明書の25ページを参照下さい。）

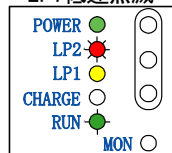
1. 断続ブザーが20秒間鳴った後、5分間 FOMA携帯電話機を充電します。
2. 充電を10秒間停止します。
3. 再び10秒間充電します。
4. 充電を終了してFOMA携帯電話機との通信が確定し、通常運転に入ります。
5. 運転状態に入ってからFOMA携帯電話機のバッテリー残量が3分の1（または5分の1）になると追加充電を開始し、FOMA携帯電話機が満充電になるまで充電し続けます。

※初期充電中に通報は行いません。

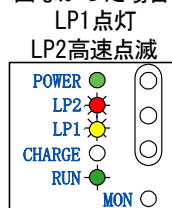
※FOMA 携帯電話機の機種によってはバッテリー残量が 3 分の 1（または 5 分の 1）以上有る場合でも、WL110F の電源を ON にした時、初期充電を開始する機種もあります。

電話を接続中
LP1点灯

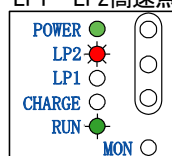
電話を接続中
「LP1（黄）」点灯。
（受話器を上げたときから受話器を下ろすまでの間）

POWER
LP2
LP1
CHARGE
RUN
MON

話中
LP1高速点滅

話し中であったとき
「LP1（黄）」高速点滅(3秒間)。

リダイヤル待機
LP1低速点滅

リダイヤル待機中
「LP1（黄）」低速点滅(リダイヤルを開始するまで)。

通報先が電話に
出なかった場合
LP1点灯
LP2高速点滅

通報先が電話に出なかったとき（60秒以内）
「LP2（赤）」高速点滅(3秒間)。
このあとで「LP1（黄）」が消灯。

通報が正常に
出来なかった場合
LP1・LP2高速点滅

1. 使われていない番号にかけたとき
2. 電波の状態が悪く、正しくダイヤル出来なかったとき
3. 通報先が圏外（又は電源が切ってある）のとき
4. 通報先がドライブモードになっているとき
発信開始で「LP1（黄）」が点灯。
しばらく待つと、「LP1（黄）」と「LP2（赤）」が両方とも高速点滅(3 秒間)。
※1. の場合は、相手先番号の確認が必要です。

通報終了
LP2高速点滅

通報終了
発信先（相手）が受話器を取ってから通話後に受話器を下して通報が終わったとき
「LP1（黄）」は消灯し、「LP2（赤）」が高速点滅(6秒間)。
その後 「LP2（赤）」 は消灯。

LP1 と LP2 による通報の状態

LP1（黄）	LP2（赤）	通報の状態
消灯	消灯	電話が切れている。通報は全て完了している。入力信号待ちの状態。
点灯	消灯	電話をかけているとき。電話がかかってきたとき。着信処理中。
低速点滅	消灯	リダイヤル待機中。
高速点滅	消灯	話し中の時。
点灯	高速点滅	通報先が60秒以内に電話に出ず、通報装置から電話を切った後の3秒間。
高速点滅	高速点滅	使われていない番号にかけたとき。 電波の状態が悪く、正しくダイヤル出来なかったとき。 通報先が圏外（又は電源が切ってある）のとき。 （通報先の携帯電話機が不在着信サービス無の場合） 通報先が、ドライブモードになっているとき。
消灯	高速点滅	通報が正常に終了した後の6秒間。 状態の確認が終了した後の6秒間。

停電保証について

充電式電池が新品で満充電の場合は、30分間動作します。入力がONでLEDが点灯している場合は、その分電力を消費しますので、保証時間は短くなります。

内蔵電池

製品に内蔵の電池は、ニッケル水素充電池です。

内蔵電池の充電はACアダプタが正しく接続され、商用電源が供給されているときは「電源」スイッチがOFFでも充電しています。
※充電はトリクル充電方式により、過充電にならない程度に弱い充電を常時行っております。
※電気代はわずかですが､長期間にわたって通報装置として使用されないときはACアダプタをコンセントから抜いておかれることをお勧めします。
※停電保証が不要な場合は、電池を取り外してください。
※電池の交換によって、設定内容や音声メッセージが消去する事はありません。

電池は2年以上使用可能です。手動で、停電状態（ACアダプタのプラグを抜いた状態）にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。

ACアダプタから電源を供給せずに「電源」スイッチをONにしてお使いになるような場合や、停電が長引いて電池の電圧が完全になくなったときは、完全充電までに72時間以上かかることがあります。

電池の交換をするときは、ケース裏面の電池蓋をスライドさせて蓋をはずしてください。
交換する電池は、必ず **ニッケル水素充電池　006P　9V型　250mAh 以上** をご使用下さい。

※アルカリ乾電池をつなげますと火災の原因となります。爆発するおそれもありますのでご使用は絶対にお止め下さい。

電池蓋を外すときは、[OPEN]と書いてある部分を指で押しながらスライドさせます。

Ｑ＆Ａ　　困ったときにご覧下さい

一般的なご質問

Q．WL110F から FOMA 携帯電話機に自動充電されず、FOMA 携帯電話機のバッテリーが無くなっていた。

A．①使用環境温度をご確認下さい。

FOMA 携帯電話機充電時の適正な周囲温度は　5℃～35℃ となっています。範囲外の環境では、FOMA 携帯電話機が正常に動作せず、WL110F との通信も出来なくなる恐れがあります。
※FOMA 携帯電話機を充電中は、FOMA 携帯電話機からもですが、WL110F 本体や AC アダプタから放熱します。
※WL110F は、FOMA 携帯電話機が通信出来ない状態では自動充電しません。
※使用環境温度は温度計で計測して下さい。

【　高温対策　】
直射日光がケースに当たる環境では､気温 40℃での場合､ケース内部は 60℃以上にも達します｡このような環境には､遮熱板 が必要です。また、市販の盤用ファンや盤用クーラーを使用されるのも良いでしょう。
※遮熱板とは ・・・ケースの周囲に設置する板です。ケースから少し離し板を配置し、直射日光が内部のケースに当たらないようにします。ケースと板の間に隙間が出来、空気がその隙間を流れるので、ケース内部は外気温に近い温度を保持することができます。

【　低温対策　】
WL110F の電源が入っている時は、WL110F 本体や AC アダプタから放熱されます。ケース内側に発砲スチロールを貼り付けるだけでも保温効果があります。また、市販品の盤用ヒーターや、ケース内に電球を点けるだけでも保温になります。その場合は、サーモスタット（バイメタル式）を使うと便利です。

②FOMA 携帯電話機に接続してある携帯ケーブルをご確認下さい。

1.　WL110F の電源を OFF にします。FOMA 携帯電話機の電源は ON にしておいて下さい。
※FOMA 携帯電話機の充電が全く空の場合は、専用充電器で 5 分程度充電してから行って下さい。
2.　WL110F と FOMA 携帯電話機を携帯ケーブルで接続した状態で、WL110F の STOP ボタンを押しながら電源を ON にします｡CHARGE ランプ(赤)が点灯したら STOP ボタンから手を離して下さい｡強制充電を行っている状態になりました｡
3.　強制充電した状態で、FOMA 携帯電話機の充電ランプが点灯するか確認下さい。

下記に該当する場合は、矢印部分が原因の可能性があります。
・WL110F の CHARGE ランプ(赤)が点灯しない→WL110F 本体
・FOMA 携帯電話機の充電ランプが点灯しない→携帯ケーブル 又は FOMA 携帯電話機 ＊
・携帯ケーブルを動かすと充電ランプが消灯する→携帯ケーブル 又は FOMA 携帯電話機 ＊
＊ FOMA 携帯電話機を別の機種（WL110F 対応機種）に変えて、強制充電させて下さい。
同じような状態になるようでしたら、携帯ケーブルに原因があると思われます。
点灯・消灯しない場合は FOMA 携帯電話機側に原因があると思われます。

◎携帯ケーブル・・・オプション品（税別 3,000 円）で販売しております。
◎FOMA 携帯電話機・・・ドコモショップへ点検（＊）を依頼して下さい。
＊WL110F は一定間隔で FOMA 携帯電話機に充電残量を確認しています。その際、FOMA 携帯電話機から信号（データ）が出なかった場合、WL110F は自動充電を行いません。この信号（データ）が出ているかを点検してもらって下さい。

※動作結果に「○」が付いている機種でも、中にはコネクタの相性による接触不良もあります。また、コネクタの差し込み違いによる接触不良もあります。
※市販のケーブル止めで携帯ケーブルのコネクタ部分を固定して下さい。

注）携帯電話機の「PIN1 コード」設定はしないで下さい（設定してある場合は解除して下さい）。
「PIN1 コード」設定がしてあると、WhiteLock110F が正常に動作出来ません。
その他、ロックが掛かるような設定はしないで下さい。 WhiteLock110F はロックを解除して通報を行う事が出来ません。また、WhiteLock110F と FOMA 携帯電話機との通信の妨げの原因になる為に、正常動作が出来なくなります。

Q．200V 用の製品はありますか。
A．ございません。単相複巻きトランス(30VA～50VA)で 200V を 100V に変換してご使用下さい。
※一次側と二次側を間違えて接続しないで下さい。必ず、接続は電気工事屋へご依頼下さい。

Q．FOMA 携帯電話機は付属品ですか？
A．付属しておりません。別途ご準備ください。

Q．使用出来る機種がドコモショップにないのですが。
A．ドコモショップには、最新機種を在庫している所が多いようです。家電量販店などが、少し前の機種を在庫している場合があります。
近年の発売新機種は、スマートホンが主流になっている事もあり、WL110F で使用できる機種が少なくなっています。使用可能な携帯電話機の入手が困難な場合は、携帯電話機不要の WhiteLock21HW（FOMA 無線モジュール搭載）をおすすめします。

Q．携帯電話機の充電がすぐ無くなります。
A．WL110F と携帯電話機は、常時通信を行っています（RUN ランプ点滅時）。その為、電池の消耗が早く、充電間隔が短くなるのです。

Q．PHS を装置に取り付けることができますか？
A．できません。

Q．受信装置に PHS が使えますか？
A．利用可能です。

Q．装置を取り付けるところでは FOMA 携帯電話が圏外となるのですが。
A．「WL110F」携帯電話機タイプは FOMA 携帯電話が圏外の場所ではご利用になれません。「WL110A_RN」一般回線タイプは、電話回線と接続して通報しますので、取り付ける場所が圏外でも問題ありません。

Q．設置場所の電波が悪いので、外部アンテナを使用したいのですが。
A．ご使用出来ません。WL110FはFOMA携帯電話機の『外部接続端子』に携帯ケーブルを接続して使用します。外部アンテナもFOMA携帯電話機の『外部接続端子』に接続して使用するようになっています。二股にするアダプタもございません。

Q．市販されている携帯ケーブル（パソコンのシリアルと携帯電話を接続するケーブル）を携帯コネクタに挿して使用できますか？
A．配線が違うので、ご利用になれません。また、付属の携帯ケーブルをパソコンと携帯電話を接続するケーブルとしても使用できません。

Q．接続する FOMA 携帯電話機で必要な契約はありますか？
A．ありません。音声で電話をかけたり受けたりできれば良いので、ｉモード契約などは必要ありません。

Q．FOMA 携帯電話と本体を接続するケーブルを延長できますか？
A．できません。長くするとノイズが入り正常に通信できなくなる可能性があります。

Q．通報先の電話に誰も出ない場合はどうなりますか？
A．通報先へ電話をかけ始めてから、60 秒以内に通報先が電話に出なければ WL110F が電話を切ります。10 秒待機して、また通報先へ電話をかけます。以後その繰り返しです。

Q．取り付けは素人でも出来ますか？
A．侵入通報の用途で、ドアセンサーなどを接続する場合は簡単に取り付けできます。制御盤などに取り付けるときは、電気工事業者にご相談ください。

Q．屋外に設置したいのですが。
A．製品は、防水暴雨仕様ではありません。水滴や、雨、粉塵等にさらされる場所では適当な樹脂製のケースに組み込んでください。鉄の箱に FOMA 携帯電話機を入れますと、電波が遮断されますので、FOMA 携帯電話機だけは樹脂製の箱に組み込むなど工夫して下さい。また、箱に直射日光が当たらない工夫も行って下さい。(32ページ参照)

Q．どの位の大きさですか？
Ａ．ケーブルや突起部分を除いて、横 90×縦 135× 厚み 35 （mm）です。

Q．業務用に使った場合に問題はありませんか？
Ａ．まったく問題ありません。

Q．保証はありますか？
Ａ．はい、ご購入後１年間です。

Q．装置の寿命は、どれくらいですか？
Ａ．約 10 年です。

Q．付属の充電池はどれくらいの期間使用できますか？
Ａ．２年以上使用できます。もし、停電状態（AC アダプタのプラグを抜いた状態）にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。

Q．マイクやスピーカーは付属していますか？
Ａ．イヤホンマイクが付属しています。

Q．今まで通報がきていたのに急に来なくなった。
Ａ．通報装置に取り付けてある FOMA 携帯電話の電波状態を確認して下さい。アンテナ（基地局）の変更等により電波状態が悪くなった可能性があります。

Q．FOMA 携帯電話機の電源を切ることが出来ないのですが
Ａ．まず、WL110F本体の電源を切ります。その後、携帯プラグをFOMA携帯電話機から抜いた後にFOMA携帯電話機の電源を切る操作をしてください。

Q．本体が通報中に電話を切るにはどうしたら良いのですか。本体の電源をOFFにしても電話が切れないのですが。
Ａ．本体の電源をOFFにした後で、 FOMA携帯電話機の電話を切るボタンを押してください。

Q．音声録音された内容をイヤホンでモニタしたとき、前より音質が悪くなりました。
Ａ．携帯プラグがFOMA携帯電話機に接続されていると再生時の音質が悪くなります。また、ACアダプタを使わず、内蔵電池のみで使った場合に電池の残り電圧が不足していると音質が悪くなります。

Q．１つのセンサーを２台の WL110F に接続できますか？
Ａ．２つの無電圧接点信号を並列に WL110F へ接続する事は可能です。

Q．１つの入力接点に２つのセンサーを接続できますか？
Ａ．可能です。

Q．通信 USB ケーブルをなくしてしまったのですが。
Ａ　市販の USB ケーブル A（オス）-B（オス）(2.0 対応)をご使用下さい。

Q．２秒間の無電圧接点出力のあるパッシブセンサーを使用できますか？
Ａ．できます。700 ミリ秒以上(初期値)の間継続して ON(OFF)の時に、入力変化があったとみなし通報します。この時間は設定ソフトで変更可能です。

Q．設置後 WL110F が動作しているのを確かめたいのですが。
Ａ．「WL110F」に電話をかけると動作していることを音声で確認できます。この場合、設定で「状態を確認する」を許可しておく必要があります。38ページの「状態の確認」を参照してください。

Q．装置を取り付けるところに電源が無いのですが。
Ａ．充電された自動車用バッテリーを使うことで長期間の連続利用が可能です。その際には、オプション品の DC/AC インバータをご使用下さい。

通報・設定についてのご質問

Q．通報先を複数設定しテスト通報を行いましたが、通報先１より先に通報先２に通報がきました。
A．WL110F は通報先１から順に通報していますが、通報先１へ電話を掛けたタイミングによって電波の発信が出来なかった場合には、電波の特性上このような事が起こります。

Q．通報先で音声メッセージが流れない事があった。
A．電波の特性上、FOMA 携帯電話機の受信レベルが十分な状態であっても通信が上手くいかない場合があります。FOMA 携帯電話から出ている電波と基地局から出ている電波の強さは異なります。電波の強さに違いがあるため、基地局からの電波は届くのに FOMA 携帯電話からの電波は基地局に届かないことがあります。このような場合に、電話に出たら切れてしまったり、音声が聞こえなかったりという症状が起こります。

Q．設定をしたのですが通報がきません
A．設定内容で「通報先の電話番号」を入力する際にハイフンは入れないで下さい。ハイフンを入れると、最初のハイフンまでの番号のみ登録しませんので通報がきません。WL110F の設定内容を読み込み、確認して下さい。

Q．タダ電通報で呼出音が鳴る回数を指定したい
A．できません。通報先へ着信したと判定されたら電話を切ります。通報先の電話機の着信履歴に残すことを目的にしています。

Q．携帯電話にタダ電通報をしていると何回も通報してくるのですが。
A．タダ電通報は通報先へ着信を確認できると正常通報となります。通報先がドライブモードにしてある場合は、何度も電話してしまいます。

Q．接点毎に異なる通報先を指定したいのですが？
A．できません。

Q．現在使われていない電話番号に通報するとどうなりますか？
A．通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかったりする場合があります。必ず、設定後に動作試験を実施してからご使用下さい。

Q．１回の通信に要する時間はどれくらいですか？
A．音声通報の場合は受けた側が電話を切るまでです。

Q．接点入力と音声通報のメッセージが違う。または、入力信号のどれが ON になっても同じメッセージが聞こえる
A．本説明書の「録音再生」29ページをご覧になりながらチャンネルとメッセージの録音が正しいか再生して確認して下さい。

Q．通報時にノイズが入るのですが。
A．入力接点に接続してあるものを外してください。制御盤に取り付けられている場合は本体も外してください。外した状態でノイズが出なければ、外部からノイズが入っている可能性があります。接点から直接ノイズが入っている場合にはリレーを入れるなどしてノイズが入らないようにしてください。

Q．誤動作などで電話代が多く請求されるようなことはありませんか？
A．１．電話の仕組みとして相手が電話に出なければ当然電話代はかかりません
　　２．電話を受けた側が電話を切ればその時点から電話代はかかりません

Q．停電保証時間を超えてから復電した場合、復電通報を行いますか？
A．　行いません。停電保証時間を超えてから復電した場合は、電源を ON し直した時と同じ状態です。

Q．通報先に番号非通知で電話がかかる
A. 通報先の設定で電話番号の先頭に 186 を付けてください。あるいは、FOMA 携帯電話機の設定で通知設定にして下さい。

Ｑ．停電通報はありましたが、復電通報が 12 時間も遅れてきました。なぜでしょうか？

Ａ．複数の通報先が全て「必ず通報」にしてあり、停電発生の通報が終了していなかったのではないでしょうか。全て「必ず通報」にしてある場合、1 ヶ所でも通報が終わらなければ永遠に通報しようと電話をかけ続けます。停電発生の通報が終了できないため、復電しても復電通報が来ないということになります。「必ず通報」に設定する通報先は、確実に電話を受けられる番号だけにしてください。夜は電源を切るような携帯電話などを通報先に設定していると、この様なことが起こります。

Ｑ．停電通報だけ電話がかかりません。

Ａ．停電保証充電池の充電が不十分な為、電源ランプは点灯しても電話をかけることができません。出荷時、付属の停電保証充電池には充電が十分されていませんので、本体を 72 時間通電させてください。停電保証充電池の充電を十分に行ってから、停電通報させてみて下さい。

Ｑ．音声録音再生はどのようにして行うのですか？

Ａ．本体上面に録音、停止、再生の各ボタンがあります。録音する場合は「録音」と「停止」ボタンを同時に押し、付属のイヤホンマイクで録音します。再生する場合は「再生」ボタンを押し、イヤホンマイクから再生されます。録音再生中は MON ランプ（赤）が点灯します。

設定ソフトについてのご質問

Ｑ．Windows7 で転送時に『75：パスが無効です。(日付時間) frmSendData21.(0)』のエラーが出ます。
Ａ．一度 WL110F 設定ソフトを閉じて、開き直してから転送してみて下さい。設定ソフトのバージョンをご確認下さい。設定ソフトの『ヘルプ』内の『バージョン情報』を選択すると表示されます。Ver1.00 をご使用の場合は、最新の設定ソフト Ver1.01 をダウンロードして下さい。

Ｑ．設定内容読み込み時、STEP2 で『6：オーバーフローしました。(日付時間) mdlWL100FileIO (0)』のエラーが出ます。
Ａ．設定ソフトのバージョンをご確認下さい。設定ソフトの『ヘルプ』内の『バージョン情報』を選択すると表示されます。Ver1.00 をご使用の場合は、最新の設定ソフト Ver1.01 をダウンロードして下さい。

Ｑ．設定データが転送（又は読み込み）出来ない
Ａ．USB ドライバがインストールされているかご確認下さい。また、設定ソフトとパソコンの COM 番号が合っているかを確認して下さい。確認・設定方法は26ページを参照下さい。

Ｑ．設定ソフトが開けません。
Ａ．設定ソフトを取扱説明書通りにインストールせず、設定ソフト exe のみインストールした場合は、VB6 ランタイムモジュールが必要です。

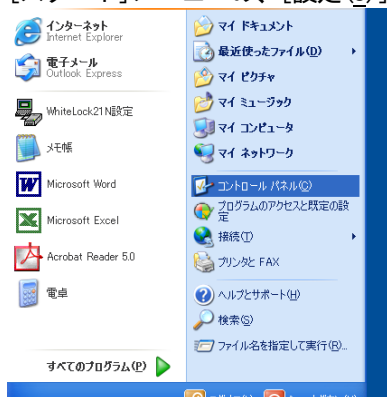
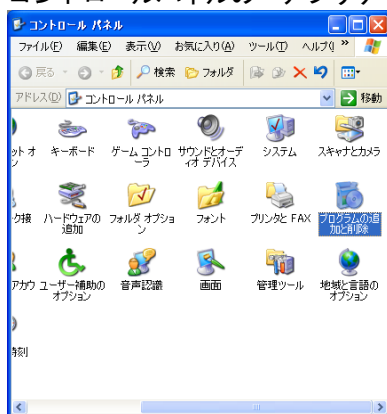
Ｑ．設定を転送するときに「バージョンが合いません」と表示されます
Ａ．本体と設定ソフトのバージョンの組み合わせが正しくない場合表示されます。バージョンを確認してください。バージョンが正しいのに表示される場合は、通信が正常に行われていない可能性があります。「通信ポート設定」で、「通信ポートを自動的に検出する」のチェックを外して、直接使用するポートを指定してください。

Ｑ．設定ソフトはついていないのですか？
Ａ．付属していません。弊社ホームページ「http://www.adocon.jp/」 から WhiteLock110F の「設定ソフト」をダウンロードし、任意のドライブに保存した後、ダブルクリックして実行してください。セットアッププログラムが実行されます。設定方法については13ページの「設定ソフトのインストール」からご覧下さい。

Ｑ．Windows で使用できますか？
Ａ．WindowsXP / 7/ 8 で動作します。

こんなときには

設定ソフトウェアのアンインストール

[スタート]メニューの、[設定(S)] から [コントロールパネル(C)]を選択します。

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

削除したいプログラム(WhiteLock110F 設定 プログラム)を選択して、[変更と削除] ボタンをクリックして画面の指示に従います。

本体を清掃するときは

本体のよごれは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。
ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いて拭いたりしますと、有害なガスが発生したり、変形や変色の原因になることがあります。

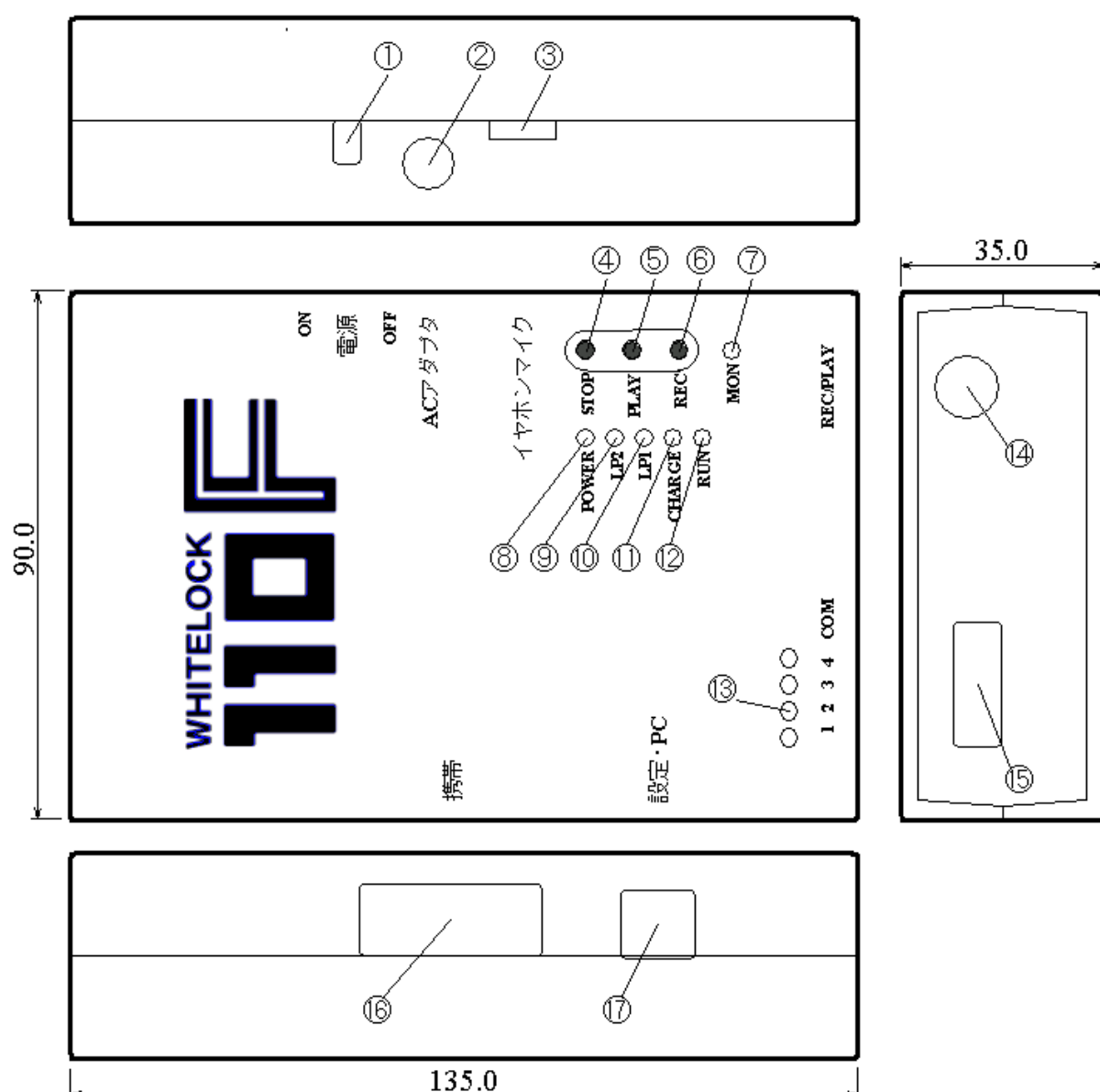
仕様

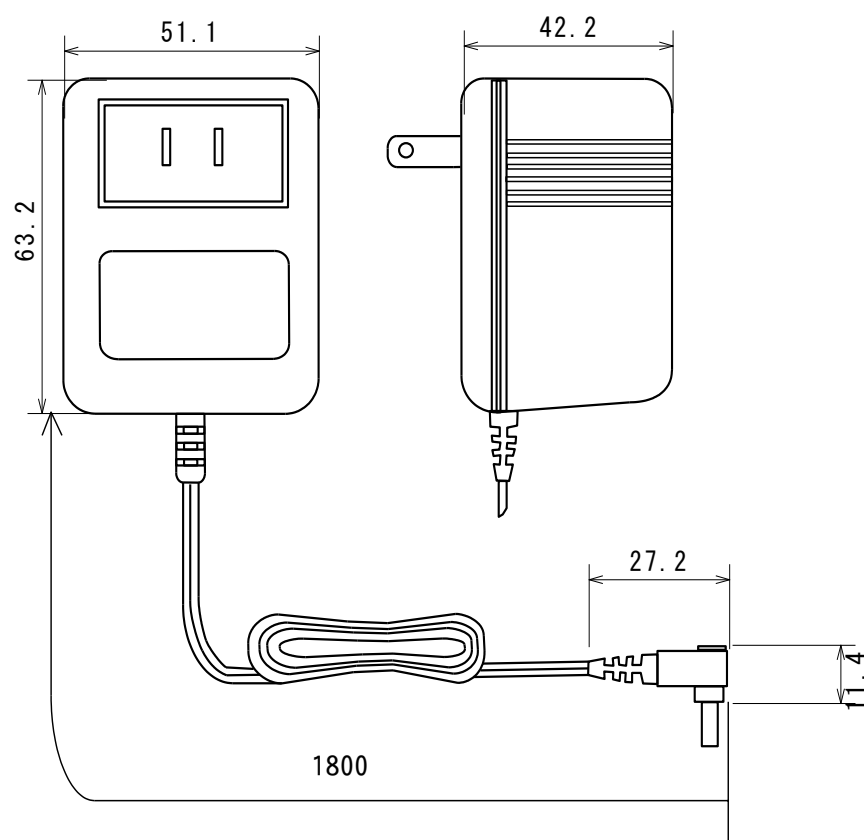
「WhiteLock110F」本体

形式	音声呼出方式非常通報装置
適用回線	ドコモFOMA携帯電話機
回線通信方式	USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev 1.1準拠)
動作設定	パソコン用専用ソフトウェアで設定内容を転送する
動作設定制限回数	最大100万回
信号入力点数	4点（無電圧接点またはオープンコレクタ）
信号入力仕様	開放電圧5V、短絡時電流 1.0mA、ループ抵抗 3KΩ以下であること。
停電復電検出機能	本体内部に停電復電検出機能搭載。停電検出時間設定あり。
自動発信の条件	入力変化
話し中検知機能	あり（話し中及び通信が確立しないときにリダイヤル）
音声録音方式	圧縮無し直接録音方式。録音制限回数 最大100万回
音声録音時間	8チャンネル装備。1チャンネル20秒、合計160秒
音声メモリバックアップ	不要（フラッシュメモリー）。録音した内容は10年間保証。
録音再生方法	イヤホンマイクを使用。録音・停止・再生ボタン操作による
停電保証	専用内蔵電池による。満充電の場合、30分間（通報回数、入力信号の状態によって変動します。）
携帯電話機充電機能	あり。電池レベルが3分の1（または5分の1）に低下したとき充電開始。 充電時間130分。
外部インターフェイス	USB 2.0。USBハブには接続できません。
電源	専用ACアダプタ AC100V 50/60Hz 5W
動作温度範囲	5℃～35℃
動作湿度範囲	15%～80%（結露なきこと）
周囲環境	腐食性ガスなきこと。 粉塵等汚れの激しい場所での使用は、カバー等で保護して下さい。
呼出電話番号設定	最大6ヵ所、ダイヤル桁数24桁
バックアップ用充電池	006P DC9V 250mAh　ニッケル水素充電池
寸法（mm）	90(W) × 135(H) × 35(D)
重量	重量 約 240g　（FOMA携帯電話機を除く電池込みの本体重量）
動作電圧	DC9.5V～10.0V（ACアダプタのプラグ差込コネクタ部）
消費電流	運転中待機時60mA以下。FOMA携帯電話機充電時（最大750mA）

設定ソフトウェア

型式	WhiteLock110F 設定ソフトウェア
動作環境	Windows XP(SP2以降)、Windows 7、Windows 8 日本語のみ対応 メモリ 64M以上　　ディスク空き容量 7M以上

外形図

1	電源スイッチ	10	動作ランプ　LP1
2	DC入力コネクタ	11	携帯電話機充電ランプ
3	録音再生用イヤホンマイクジャック	12	運転モニタランプ
4	録音再生・停止押しボタンスイッチ	13	外部信号入力モニタランプ
5	録音再生・再生押しボタンスイッチ	14	録音再生・チャンネル切替スイッチ
6	録音再生・録音押しボタンスイッチ	15	外部信号入力端子
7	録音再生モニタランプ	16	携帯ケーブル接続コネクタ
8	電源ランプ	17	設定用USBコネクタ
9	動作ランプ　LP2		

AC アダプタ外形図

バージョン

WL110F	取扱説明書	設定ソフト	日付
Ver1.21	Ver1.0	Ver1.0.0	2009/01/16
Ver1.22	Ver1.1		2010/08/18
	Ver1.2		2010/11/17
	Ver1.3		2011/06/10
	Ver1.4	Ver1.0.1	2011/09/14
	Ver1.5		2011/11/29
	Ver1.6		2012/07/18
	Ver1.7		2012/09/27
	Ver1.8		2013/06/19
	Ver1.9		2013/08/27
	Ver2.0		2014/01/31
	Ver2.1		2014/06/06
	Ver2.2		2014/08/23
	Ver2.3		2015/02/12

更新履歴

Ver1.0 2009/01/16
・作成
Ver1.1 2010/08/18
・本体バージョンアップによる FOMA 携帯電話機充電機能の変更を追加
・取付位置図を追加
・AC アダプタ外形図を追加
・取付足図を追加
・留守番電話サービスの説明追加
・他細かい部分の変更
Ver1.2 2010/11/17
・内部回路図の修正
・『タダ電』で通報先の携帯電話機が不在着信サービスに加入していた場合、圏外・電源 OFF の場合でも通報が正常終了してしまう
・携帯ケーブルコネクタ部分は市販のケーブル止めを使用してもらう
・他細かい部分の変更
Ver1.3 2011/06/10
・『パッケージ内容』の端子台に『本体に取り付け済み』を追加
・『FOMA 携帯電話機の設定』と『一般的な質問』に『PIN1 コード設定』や『その他のロック設定』をしないよう追加
・他細かい部分の変更
Ver1.4 2011/09/14
・設定ソフト Ver1.0.0 から Ver1.0.1
停電・復電時間を 10 分に設定している場合の設定内容を読み込む時にエラーが発生するのを修正。
設定画面でマウスポインタを移動すると表示されるポップアップメッセージの修正。
・FOMA 携帯電話機充電時の適正な周囲温度を 5℃～35℃と記載。あわせて WL110F の仕様（環境温度範囲）も変更。
・FOMA の電波の特性を追加。発信しても繋がらない場合や、音声が聞こえない場合がある事。
Ver1.5 2011/11/29
・輸出に関する書類等は一切提供出来ない事を追加
・D タイプとの違いに「タダ電通報時、通報先が電話を取ると WL110D から電話を切っていたが、WL110F は 120 秒後に切れ、リダイヤルする」を追加
・パッケージ内容の携帯ケーブルに長さを追加
・Q&A の修正
・設定ソフトの仕様に Windows7 を追加
Ver1.6 2012/07/18
・「通報の種類」のタダ電通報で通報先が電話に出た場合を修正
・強制充電時に CHARGE ランプが点滅する場合がある事を追加
・設定ソフトの動作環境で、WindowsVista は社内での動作確認が出来ない為、削除
・Windows98、WindowsMe、Windows2000 のサポートは終了した事を追加
Ver1.7 2012/09/27
・FOMA 携帯電話機充電時に関する注意を追加
Ver1.8 2013/06/19
・取扱説明書サイズを A5 から A4 に変更
・索引の追加
・表記ページへのリンクを追加
・スマートホンに対応していないことを追加
・設定の転送・読込時に少し時間を置いて電源を ON にする事を追加
・通報の状態を表す図を差し替え
・外観図の差し替えとリンク
Ver1.9 2013/08/27
・WL110F に接続した携帯電話は、WL110F の電源を切った状態で WL110F から外さないと故障する恐れがある事を追加
・入力信号の接点仕様の説明を解りやすく修正
・電池の仕様に 250mAh 以上を追加
・Q&A の追加
・その他細かい所の修正

Ver2.0 2014/01/31
・出荷時の録音メッセージ内容を追加
・信号入力の内部回路図を他製品と統一
・自動充電開始の目安で、充電残量3分の1に（または5分の1）を追加した
Ver2.1 2014/06/06
・設定ソフト対応OSにWindows8を追加
・入力端子の信号線に単線0.5Φ～1.3Φ を追加
・信号線をまとめるのに絶縁付閉端接続子の説明を追加
・200Vを100V変換するトランスの説明をQ&Aに追加
Ver2.2 2014/08/23
・信号入出力内部回路図の矢印を削除
・よくある質問の追加と修正
Ver2.3 2015/02/12
・よくある質問の追加
・その他細かい所の修正

索引

WhiteLock110F

取扱説明書

Ver2.3

2015 年 02 月

発行元　　株式会社アドコン

http://www.adocon.jp

〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉 3-24

TEL (0852) 54-2036　FAX (0852) 54-2196